

2021年10月1日



月刊

もぐら通信

2024年7月1日 第140号 初版

<http://abekobosplace.blogspot.jp>

あなたへ:
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

電話

042-ABE-KOBO

FAX

042-KOBO-ABE

もぐら通信を自由にあなたの《友達》に配付して下さい



目次

- 1 目次...page 2
- 2 記録&ニュース&掲示板page 3
- 3 巻頭詩（25）：マスク：安部公房.....page 18
- 4 周辺飛行（49）：4。『安部公房スタジオ会員通信』（4）：第4号：岩田英哉...page 19
- 5 『文章読本』論（4）：菊池寛：岩田英哉.....page 25
- 6 糞尿と性愛の文学~生殖器・排泄器同一社会論仮説~（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号：岩田英哉...page 23
- 7 ネット・モナド論（20）：7.4.5 都市とは何か/7.5 政治形態EとAの公私：一神教のtopologyの政治形態：岩田英哉...page 24
- 8 私の本棚（39）：ノーム・チョムスキー著『メディア・コントロール』を読む：岩田英哉...page 25
- 9 Mole Hole Letter（63）：超越論II（第六回）：岩田英哉...page 37
- 10 サンチョ・パンサを求めて（15）：ソクラテスは何故哲学者か（2）：II ソクラテスの対話の様式：岩田英哉...page 49
- 11 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（19）：5.16.4 八の音義は何を意味するか（承前2）：岩田英哉...page 56
- 12 Topologyで日本の文化を解説する：内なる辺境シリーズ（12）：扇：岩田英哉... page 62
- 13 編集後記...page 60
- 14 編集方針.....page 61



The best tweets of the month

Golden Mole
Prize

該当なし

Silver Mole
Prize

箱入りミミック@hakoiri_mimic・11h
私のダディは安部公房です。

今月のマルケスとカネッティ

crow@tobeyokashi・Sep 14

#今日買った・届いた本を紹介する

G・ガルシア=マルケス『百年の孤独』

エリアス・カネッティ『眩暈』

安部公房曰く、

「これが大変な作家なんだ」（カネッティ）

「一世紀に一人、二人というレベルの作家じゃないか」（マルケス）

『死に急ぐ鯨たち』を読んで、いよいよ避けて通れなくなりました。



今月の安部公房・自選集

Akane@読書Bookmark@nir_books_akane・1h

1年半帰れていない実家とFaceTimeをつないだら、おばあちゃんが「いい時代になったもんだ」って何度も言って嬉しがって嬉しかった。なんか当たり前に享受してるけど、改めて時代の進化に感謝。

この安部公房の本は昭和39年の本で、当時650円。その頃、初任給は2万を切っていた。ということは...



今月のロシア人の人気作家

Astghik Hovhannisyán (アスタ) @AstghikHovhann4-Sep 12

ちなみに、日本文学といえば、ソ連時代にアルメニアで人気だったのは芥川龍之介、川端康成、安部公房でした（今も特定の世代の人に愛読されている）。独立後は村上春樹（今も30代、40代の人を中心に人気）と村上龍。次は誰が人気になるのか楽しみです。

今月の友達論

ホッタタカシ@t_hotta-Sep 10

シス・カンパニー公演『友達』、非常に新鮮に感じた一面、やや明快にしすぎた部分もあり、デジタル世代の『友達』って感じ。過去の上演例については、安部公房没後20年の時に長いエッセイを書きました。#SIS友達 #友達

『友達』問答～劇作家・安部公房は甦るか：<https://goldenpicnics.hatenablog.com/entry/ar622813>

今月の新潮社への苦情

彗星読書倶楽部@suisuibookclub-Sep 10

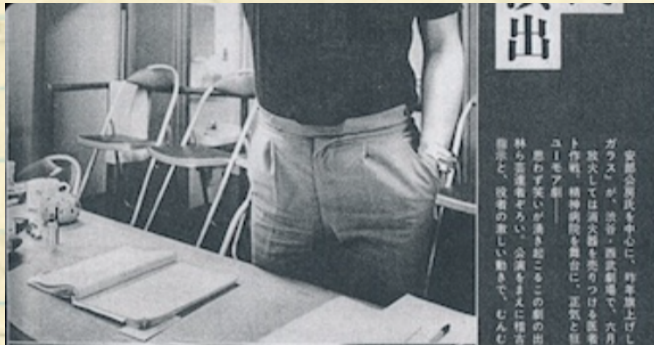
安部公房は私が生まれた年に死んだので、ごく最近の文学なんです。小説は新潮文庫で大半が手に入るけど、新潮にはいい加減、文明論や対談も文庫で出して欲しい。小松左京と安部公房の対談、日本には中央アジアの文化が大量に流れ込んでる等々、のっけからラストまでゾクゾクするほど面白いのだ。

今月の安部公房スタジオ

ホッタタカシ@t_hotta-Sep 10

今回の上演では、安部公房スタジオ出身の浅野和之が祖母役で出演しているのが嬉しい。かつて日大のゼミが安部公房作品のトリビュート公演をやった際、山口果林が『友達』の祖母を演じたのを思い出した。安部スタジオについては以下にくわしく書いてます。#SIS友達 #友達

「安部公房の劇場」をめぐる一夜：<https://goldenpicnics.hatenablog.com/entry/ar720444>



今月の箱男 in podcast

彗星読書倶楽部@suseibookclub・Sep 10

今朝のポッドキャストは、読者を混乱の渦にぶち込む実験小説、安部公房『箱男』を解説しました。この番組では難しいことは取り上げないので、気楽に聴いてくださいPartying faceThumbs up #16：迷宮のごとき問題作 安部公房『箱男』1/5 <https://anchor.fm/suseibookclub/episodes/16-15-e1759uo/a-a6ge176>… え

#読書垢さんと繋がりたい #読書 #安部公房

作家・森大那の文学講座：<https://anchor.fm/suseibookclub/episodes/16-15-e1759uo/a-a6ge176>

今月の安部公房に会いたい

沢聖峰 『女流飛行士マリア・マンテガッツアの冒険⑦』 航空劇画短編集『シャーズパイロット』発売中・Sep 12

NHK あの人に会いたい 安部公房

「小説というのはそれ以前の意味に到達する前のある実態を提供する、そこで読者はそれを体験するというもんじゃないかと思う」

<https://www.youtube.com/watch?v=6SjT3UemcKg>

今月のコルクボード

滝沢聖峰 『女流飛行士マリア・マンテガッツアの冒険⑦』 航空劇画短編集『シャーズパイロット』発売中・Sep 14

安部公房の書斎にあったコルクボード。

「帝都邀撃隊」を描いていたとき、私も真似して作った。取材したエピソードやアイデアをカードに書き、時系列に合わせてピン止めするのである。結構役に立った

と思う。

<https://www.dailymotion.com/video/x7z8hqx>



今月の日本語サヴァイヴァル論

ルクス・エテルナ@fwkv9379-Sep 11

日本語の豊かさとかいうものは、俗語と論語や源氏物語の原文、三島由紀夫と安部公房と円地文子と中上健次、フーコーの翻訳とかがごちゃっと一緒に存在している状態でようやく保たれるもので、それが我々の自律的思考力の源泉だ。そうじゃないと属国化は免れぬ

今月の初版本

ヒロ@Pocky1123-Sep 13

初版本は表紙だけでも楽しい。

1枚目から

三島由紀夫『夏子の冒険』
長与善郎『明るい部屋』
有島生馬『死ぬほど』
安部公房『壁』



#個人的に好きな本の表紙4選

今月の公演

DuckSoup@DuckSoupProduce・Sep 14

【山崎一】舞台出演情報

東京公演ライブ配信日の詳細が発表されました～！

シス・カンパニー「友達」

作：安部公房

演出：加藤拓也

2021年9/3～26 新国立劇場 小劇場

2021年10/2～10 サンケイホールブリーゼ

ライブ配信：2021年9/25(土) 14時開演/18時開演

(アーカイブ視聴：9/27(月)23:59まで)

Quote Tweet

シス・カンパニー舞台制作

@sis_japan

・Sep 14

お待たせいたしました！

RainbowRainbow 『#友達』ライブ配信詳細決定です！RainbowRainbow

ライブ配信日時：9/25(土) 14時開演/18時開演

視聴券発売開始：9/15(水) 10時～

発売方法等の詳細はコチラから→<https://siscompany.com/produce/lineup/tomodachi/article.php?id=37>…

Sun with rays本編開始前には案内役として

#有村架純さん & #林遣都さんが登場！

お楽しみに！

今月の箱男

さんろくまる@sanrokumaru41・Sep 12

安部公房の箱男を読んだ

最初なんだコイツ統失かって思ったし、なんだかよくはわからないけど、めちゃくちゃ読みやすくて安倍公房文章めっちゃうまいなって思った。ニュース中毒のくだりは今だったらSNSとかになるのかなとなんとなく思った。面白かった。頭の悪い感想しか言えない癖に感想言っちゃう



20世紀の文学bot@20C_Literature-Sep 9

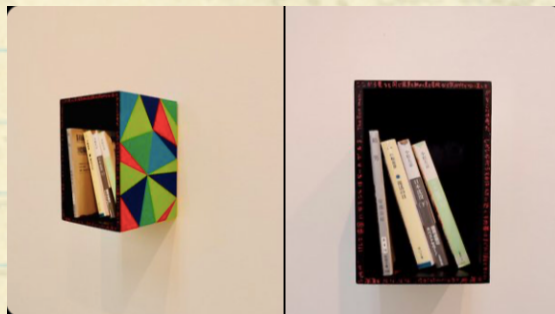
彼女が、もし、本気でぼくを知りつくそうとしてくれるなら……昨夜、贗箱男に見せたような姿勢で、ぼくを受止めてくれるつもりなら……たしかにもう箱なんか無くてもいい。隠す醜さを持たない人間には、他人の醜さだっ見えなはずだろう。『箱男』安部公房

瀬瀬 令 Kohketsu Art@kinkanhyu-Sep 14

今日も今日とて銀座ステップスギャラリーに在廊しております。

モチーフとして使った「箱男」の本などが入っております。

#アート #art #芸術 #絵 #イラスト #絵画 #個展 #美術 #箱男 #artwork #現代アート #銀座 #painting #瀬瀬令 #contemporaryart #modernart #アクリル画 #安部公房



今月のカンガルー・ノート

今日のミラベルさん@etre_danslalune-Sep 11

再読してもよく分からないだろうけどまた読みたいなあ。頭の中を壊されるのがクセになるというか。..初出が1991年。文庫末に「『カンガルー・ノート』再読」を寄せているドナルド・キーンももうこの世にはいない。/『カンガルー・ノート』安部公房 新潮文庫



碧春@miharu_g-Sep 9

祖母の葬儀が終わり、私もそろそろエンディングノートを遺さねばならぬ年齢になって来た。取り敢えず棺には生花などは入れず本を2冊程入れて欲しい。三島の「金閣寺」と安部公房「カンガルーノート」。そして最後にチック・コリア「Spain」を聴かせて欲しいと我儘いっぱいだ。欲深いかな。

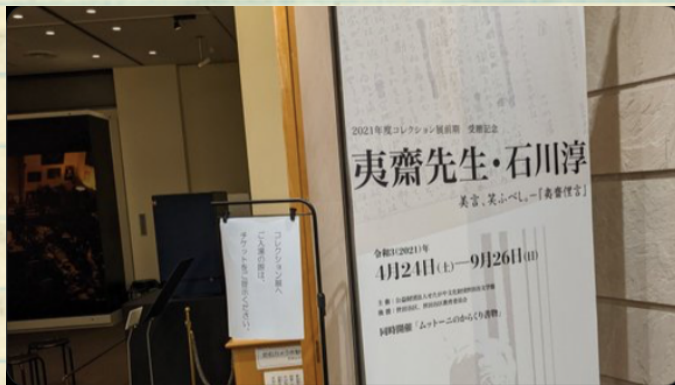
米@kome_osgsndi-Sep 14

最近ほんとうに安部公房にハマってしまってもしいま尊敬してる人は?って聞かれたら安部公房って言っちゃうかも 私も足からカイワレ大根が生えてくる男の話を書いてみたいよ…その発想、いったいどこから…

今月の夷齋先生

千春@CHaTeau47-Sep 10

あと今やってるコレクション展も。特に書簡が面白くて、三島由紀夫とか小林秀雄とか安部公房とかが石川淳に宛てたのを、だいたい全文読めるのがよかった。



今月の密会

散歩@64.6@holidaydoughnut-14h

左は初めての澁澤龍彦。
右は読むたびに吃驚する安部公房。



今月の砂の女

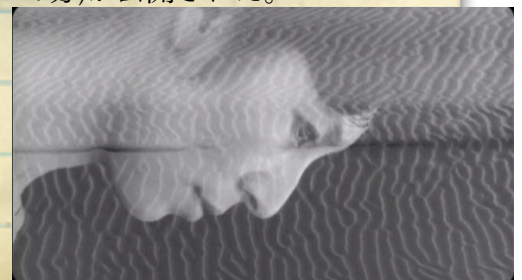
YoshiiHaraNight with stars@y_ihara-Sep 8

#utamaru 「砂の女」(1964 勅使河原宏監督)安部公房原作。カンヌ映画祭審査員特別賞受賞作。国外でも非常に高い評価。近年、完全版(147分)が公開された。

あいかわ@pcat176-Sep 14

9.砂の女 安部公房

誰も覚えていないと思いますが、確か私は年初あたりに「これからは日本の名作と呼ばれる本を読む」と宣言しました。この本を初手購入した結果、会話や情景のねちっこさにやられてウウウとなり手が止まっています。ねちっこいのよ……。





今月の教科書

KSunflower@kei_moreten・Sep 9

言うて今考えると羅生門も山月記もこころも安部公房も全部教科書で読んで知ったから資産なんだなあ国語の教科書って…

今月の闖入者

RN.maa-yamLove letter  @3world3knt3・Sep 12

安部公房の闖入者が1952年

それから70年経っているけど、観ている舞台は自分の身の回りのリアルな今の世界と共振して、震えっぱなしだった。

ずっと怖くて、全ての役に身に覚えがあって、夢のような本当の話。

クセになるエグ味。

刺さりまくった。

また行きます。

今月の第四間氷期

円堂都司昭@endingendless・Sep 13

10月23日の「加藤優 安部公房『第四間氷期』における「未来」

—— 東京湾表象を視座に ——」

興味あり。

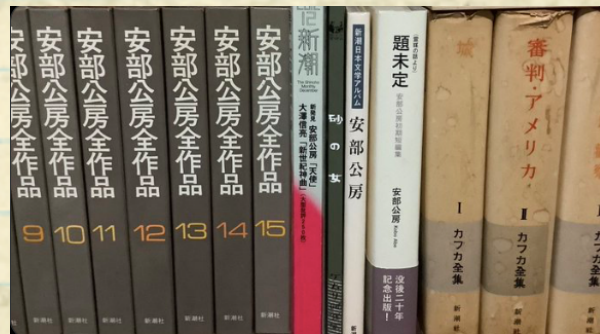


今月の安部公房全作品

ケンゾー | grafico@grafico_kenzo・Sep 10

僕の本棚にある安部公房ゾーンに、ずっとファンであるケラさんの「砂の女」のパ

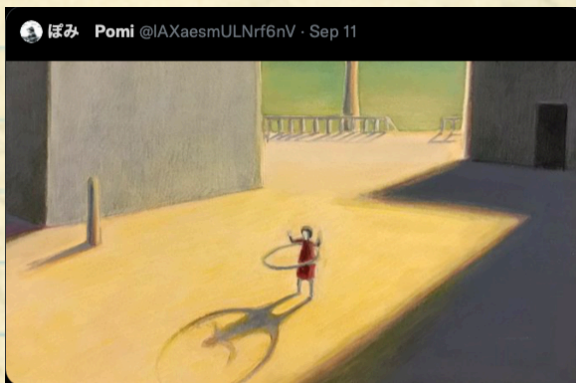
ンフが加わった。終演から約3時間、まだ、念仏のように「ケラさんスゲェ、ケラさんスゲェ」と呟いてる。



今月の安部公房らしさ

サコウリョーマ Ryoma Sakoh@ryoma_sakoh-Sep 12

安部公房を連想させる 好きです



今月の安部公房全集

わつらな@whatslana4-Sep 9

学生の時、三宮センター街のジュンク堂でばばんっと並んだ新潮社の安部公房全集見て、うわあ欲しいーでもお金ぜんっぜんないーって買えもしないのにずっと眺めてた

図書館でよく見る文豪の全集はおどろおどろしい明朝体の背表紙だったけど、これはなんかシュツとしててかっこいいーと当時思った



PloyDizzy symbol@gazemaze6・8h

どうしても手元に置いておきたくて安部公房の全集を揃えはじめたけど、収納場所をどうしたものかな

かえりたいにゃん@kaeritainyan・Sep 8

『安部公房全集』(全30冊)新潮社、高いなあ。日本の古本屋でも12-13万円くらい。半額くらいなら注文したいんだけど。

今月の存在の夫婦

米@kome_osgsndi・Sep 10

さいきん安部公房の本を読んでいて面白すぎて感動しているので、夫との会話の中で渾身の安部公房ジョークを織り交ぜてみたものの、生粋の理系人間にはまったく気づいてもらえないまま一週間が経ちました

今月の意味不明ツイート

あかつき(点P)@hobbyynn・Sep 12

やっぱり安部公房は精神的ダメージがでかい

今月の藤野君

飯テロ小説bot@nuenonamae・Sep 11

親指ほどの太さもある、チョコレート・キャンディだった。つまり、容器にふさわしい内容だったわけである。藤野君は、赤い大きな舌を出して、そのチョコレートの棒をしゃぶり始める。ひと舐めごとに、息を入れ、ゆっくり時間をかけて、しゃぶり始める。

安部公房「藤野君のこと」

今月の読書会

読書会みらい@bookclubmirai・Sep 9

次回の読書会みらい

9月22日水曜 19:30-21:00

安部公房「箱男」

読んで参加型です。無料 Zoom

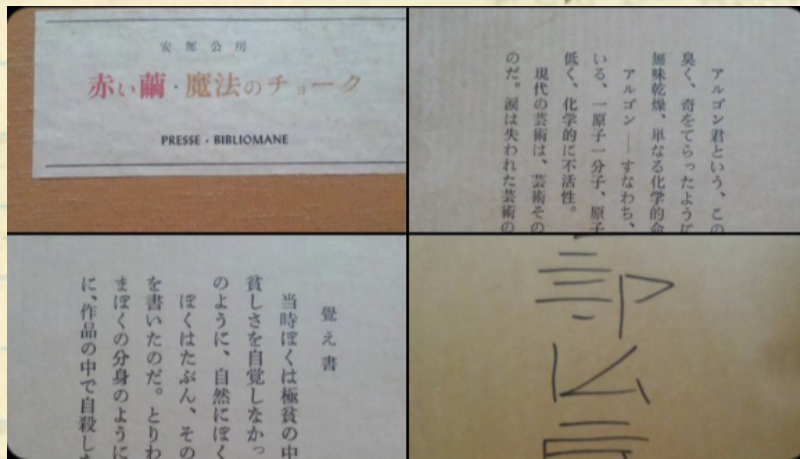
どなたでもどうぞ。

今月の赤い繭と魔法のチョーク

SAMURAI-GUN@TOUYANMAN3431・Sep 14

Replying to @SeihoTakizawa

安部公房作品は、ふとした時に読みたくなりますね。



今月の読書会1

信州読書会：けものたちは故郷をめざす

安部公房『けものたちは故郷をめざす』読書会 (2021.8.27) その1

<https://www.youtube.com/watch?v=UHJ59rZ50Do>

安部公房『けものたちは故郷をめざす』読書会 (2021.8.27) その2

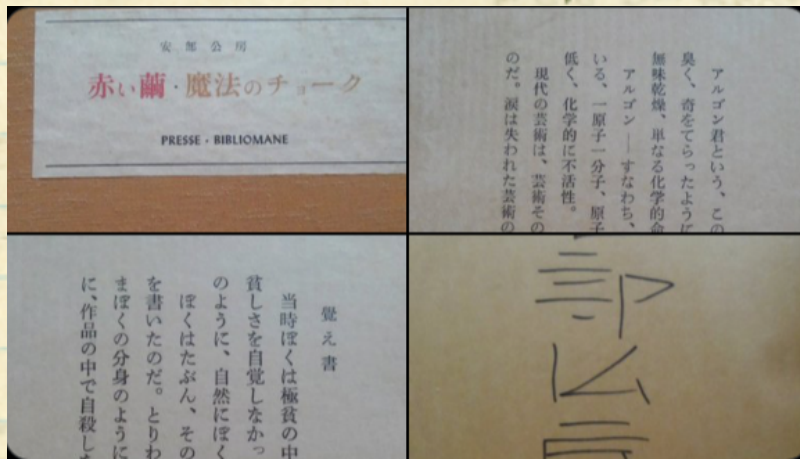
https://www.youtube.com/watch?v=ClqvDYbAL_4&t=211s

今月の赤い繭と魔法のチョコレート

SAMURAI-GUN@TOUYANMAN3431-Sep 14

Replying to @SeihoTakizawa

安部公房作品は、ふとした時に読みたくなりますね。



今月の読書会1

信州読書会：けものたちは故郷をめざす

安部公房『けものたちは故郷をめざす』読書会 (2021.8.27) その1

<https://www.youtube.com/watch?v=UHJ59rZ50Do>

安部公房『けものたちは故郷をめざす』読書会 (2021.8.27) その2

https://www.youtube.com/watch?v=ClqvDYbAL_4&t=211s

■ 第43回ぴあフィルムフェスティバル

「PFFスペシャル映画講座」には8人の講師が参加。「コロナ禍の卒業映画制作」では映画監督の廣原暁と諏訪敦彦、「越境するインディペンデント映画-1越境シネマ LABOzはじめます-」では映画監督の藤元明緒と映画プロデューサーの渡邊一孝、「タイトルと内容のギャップに驚愕！加藤泰の傑作」では千葉・国立歴史民俗博物館名誉教授の横山百合子、「安部公房と勅使河原宏」では映画監督の石井岳龍、「勅使河原宏の音と空間」では音楽家の長嶋寛幸と詩人の松井茂が講師を務める。詳細やそのほかのプログラムについては下記を参照してほしい。第43回ぴあフィルムフェスティバルは9月11日から25日に国立映画アーカイブで開催。チケットは8月28日10時にチケットぴあで発売される。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/68f4ff69b8fce7e9896713fa9454704b84f33e40>

□ ナワポン・タムロンラタナリット監督特集 ~タイからの新しい風~ <上映作品> 「ハッピー・オールド・イヤー」 「BNK48: Girls Don't Cry」 「ダイ・トゥモロー」 「フリーランス」 「あの店長」 「マリー・イズ・ハッピー」 「36のシーン」 「ハッピー・オールド・フィルムズ1」 「ハッピー・オールド・フィルムズ2」

□ ピーター・バラカン ナビゲート 映画と音楽シリーズ「ブラック&ブラック」 <上映作品> 「ミカ・カウリスマキ/ママ・アフリカ ミリアム・マケバ」 「ミスター・ダイナマイト:ファンクの帝王ジェームス・ブラウン」

□ 祝! フィルマドリッド最高賞受賞記念上映「おばけ」 <上映作品> 「おばけ」

□ PFFスペシャル映画講座 コロナ禍の卒業映画制作 <上映作品> 「藝大の怪談」 <講師> 廣原暁 / 諏訪敦彦

越境するインディペンデント映画~I越境シネマLABOzはじめます~ <上映作品>

「僕の帰る場所」 「海辺の彼女たち」 <講師> 藤元明緒 / 渡邊一孝

タイトルと内容のギャップに驚愕! 加藤泰の傑作 <上映作品> 「骨までしゃぶる」 <講師> 横山百合子

安部公房と勅使河原宏 <上映作品> 「砂の女」 <講師> 石井岳龍

勅使河原宏の音と空間 <上映作品> 「他人の顔」 <講師> 長嶮寛幸 / 松井茂

森田芳光70祭~伝えたい、モリタを~ <上映作品> 「ときめきに死す」 (ゲスト: 富永昌敬) 「メイン・テーマ」 (ゲスト: 松居大悟) 「それから (1985年)」 (ゲスト: 沖田修一) 「39-刑法第三十九条-」 (ゲスト: 石川慶、向井康介)

第27回PFFスカラシップ作品「裸足で鳴らしてみせろ」完成披露上映 <上映作品> 「裸足で鳴らしてみせろ」

熊坂出監督最新作「プリテンダーズ」 <上映作品> 「プリテンダーズ」

コンペティション部門「PFFアワード2021」 <上映作品> 「愛ちゃん物語♡」

「苺のジャムとマーガリン」 「壁当て」 「巨人の惑星」 「帰路」 「グッバイ!」

「県民投票」 「五里霧中」 「サイクルレース」 「Journey to the 母性の目覚め」

「転回」 「ばちらぬん」 「Parallax」 「豚とふたりのコインランドリー」 「距て

てて」 「みなみとあした」 「夜の帳につつまれて」 「ROUTINE」

もぐら文学賞第一回募集要領

もぐら通信の創刊号（2012年9月30日）から数えて来月が丁度10年目です。この10年の節目を記念して、誠に「時知らず者」の安部公房には申し訳ないが（『中埜肇宛書簡第4信』全集第1巻78ページ下段）、敢へて小説の募集をします。

1. 応募期間：2021年9月1日より2022年8月31日まで1年間。発信主義。着信主義ではない。8月31日付の発信は有効です。

2. 送付先メールアドレス：eiya.iwata@gmail.com

3. 対象ジャンル：小説

4. 小説の長短：

次の安部公房の短編の量の間どれかの量：

(1) 『赤い繭』の量：最小2000文字（400字原稿用紙5枚）

(2) 『魔法のチョーク』の量：最大6300文字（400字原稿用紙16枚）

(*）コントは対象外とします。

5. 応募条件：

(1) 安部公房の読者

(2) 一人何篇でも応募可。応募のたびに名前を変へること可。

(3) 年齢：不問

(4) 性別：不問

(5) 国籍：不問

(6) 言語：不問。編集部で日本語に翻訳し、原文とともに掲示します。

(7) 提出文書のフォーマット：pdf

(8) かな・漢字：新旧字体不問

ニュース & 記録 & 掲示板

6. 応募名：

- (1) 本名を名乗ってはならない。
- (2) 安部公房作品の主人公または登場人物の名前を名乗ってはならない。
- (3) ネットのハンドル・ネームまたは独自に案出した応募名で可
- (4) 最も望ましい応募者は国家に登録されてゐない者である

7. 選考委員：

- (1) もぐら通信の全ての読者
- (2) 国内外の読者を問はない。

8. 作品の公表：

- (1) 編集部に着後都度読者に配信します
- (2) 月毎の配信の号に掲載して応募記録を残します

9. 評価方法・評価基準：

- (1) 安部公房の同社としての選考委員の独自の判定基準に委ねる
- (2) 採点の範囲は、1点から10点まで
- (3) 最終的な判定は、もぐら通信編集部及び発行人が各作品に下す

10. 評価・選考のためのネット選考会月次開催
応募のあつた月のみ開催します。これは都度案内します

11. 賞金：10万円

- (1) 一等賞：受賞者一名
- (2) 最終受賞者の複数ある場合には均等に分割する

12. 将来の展望：

- (1) ノーベル文学賞の日本円換算1億円以上にします
- (2) ゆくゆくは、詩部門・戯曲部門・写真部門・音楽部門を併設し、安部公房文学の性格に相応しいジャンル横断の総合的な文学賞にした
い

以上

巻頭詩
(25)

マスク

安部公房

マスク

盲目のマスクを

巷に群れた悲しみの心に

そつと置いてやる

もえさしの火を 一つ一つ

静かに消す

笑ふものはもう誰も居ない

非情の人の想出に

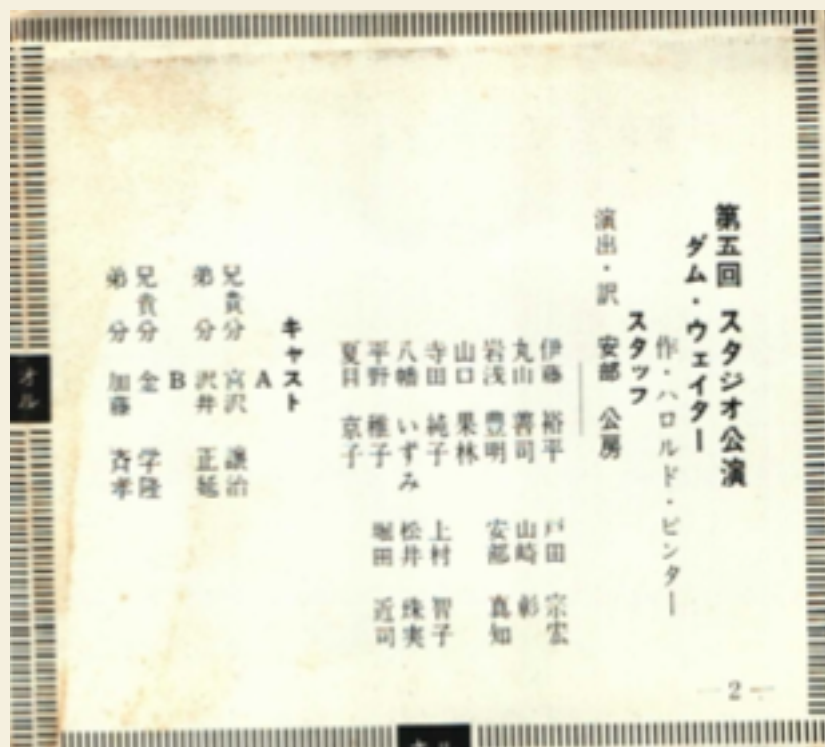
盲目のマスクを静かに撫でる

やがて無限が

そこから流れる

周辺飛行（４９）

4。『安部公房スタジオ会員通信』（4）
第4号





人間・反人間 安部公房

俳優はこの作品を演ずるまえに、まず存在していなければならぬ。単に舞台の上に存在するだけでなく、現代という時代のなかに確実な存在しなればならぬのである。そのために設定をすべて日本の条件に置き替えてみた。だがいわゆる翻案劇ではない。本質的にはあくまでも原作に忠実な舞台をめざしたつもりである。

題名だけは、ダム・ウェイターという原題をそのまま使用することにした。理由は、この題があまりにも重層的な意味を持っていて、日本語に移しかえることが困難だったからだ。劇中に出てくる、料理を階の上下に昇降させる装置（中華ソバ屋などでは「リフト」と呼んでいる）も、やはりダム・ウェイターらしいが、それは調理場の燃料にもっぱら石炭が使用された時代のアメリカ語で、現代ではほとんど死語に近いらしい。この題名か

- 5 -

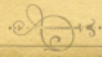
らまっさきに連想するのは、イギリス人なら「暇の給仕」、アメリカ人なら「馬鹿な給仕」といったところで、劇の進行につれて、そう言えば例のリフトのこともダム・ウェイターだったわけ、と思いつき、さらに劇が終わってから、ウェイターがただの給仕ではなく、その本来の意味である「待つ人」かもしれないことに思い当るといふ込み入った仕掛なのだ。もともとが霧の夜道に迷い込んだような題名なのだから、「もの言わぬ給仕」だとか、「無言の待ち人」だとか、変にしゃれてみるよりは、ダム・ウェイターのままの方がまだましだろう。

恐ろしい芝居である。

昭和四十八年十一月、初演のパンフレットより転載。

- 6 -





新潮社新刊案内

▽発売中・価各2000円

ハロルドピンター全集
(全3巻完結)

喜志哲雄・小田島雄志・沼沢治治 訳

安部公房

密会

〈純文学書下ろし特別作品〉

▽発売中・価1100円

巨大な病院の迷路に息づく、ひめやかな愛と快楽——野心的な構成と手法で描かれた、現代の神と悪魔の物語。

— 7 —

安部公房写真展(カメラによる「下ノート」より「タイムレス」の原五)

— 8 —

安部公房
Kobo Abe

密会
Secret Rendezvous

Secret Rendezvous

新潮文庫

10
もぐら通信





-11-

↓お知らせ↑

- ハワイ大学で「ウエー」を上演。
 - アメリカ・ミルウォーキー劇場で「友達」が年度のレパトリリーになる。初日は一月二十七日。また、同時に同劇場で、安部公房の写真展（カメラによる創作ノート）が開催される。
 - 一月末、安部公房訪米。
 - 第六回スタジオ公演（四月）は「人命救助法」に決定。八ミリ映画を駆使したスピードにあふれた舞台にする予定。乞うご期待！
 - 五十一年に通信費をお納めの方は、今年で期限が切れます。
- 五十二年・五十四年分の会費（五〇〇円）をお納め下さい。

◎アメリカに先がけ、安部公房の写真展（カメラによる創作ノート）を当スタジオにて会員のみ公開します。入場無料です。一月二十六日から三十日まで十二時～五時まで。ご来場がてらにこの期間を「ダム・ウエイター」のお申し込みにご利用下さい。

オル

-12-

『文章読本』論

(3)

菊池寛の文章読本

岩田英哉

谷崎が文書は実用に徹することが大事だといひ、これが結果として藝術的能力を必要とすることになると言つてゐることと同じことを菊池寛は、この作家の文章読本の最後の「結論」部で下記の通りに述べてゐます。この文章は、このまま私たちの作文のお手本となる優れた日本語の文章です。原書の写しをそのままに転載します。

この実例に至るまでの最初の出発点の「序論」の「1 新しい文章」で云ふ「社會は、誰にも彼にも、小説家らしい感受性をもち、それを表現した文章を要求してはゐない。寧（むし）ろ小説家的な文章であつてはならないのである。飽（あ）くまでも簡潔で、平明で、自分の心意をはつきり相手にわからせればよいのである。文章を作るために彫心鏤骨（てうしんるこつ）することは、既に古いと思ふ。簡潔に、思ふことを書け、——これが、文章道の根幹である。徒（いたづ）らに、小説家の技巧を真似て、この根幹を忘れてはならない。」（同書3ページから4ページ）これが菊池寛の「序論」での主張であり、その実作例が「結論」での文章です。

そして、同時に感心することは、当時の出版業界では漢字に総ルビを振つて、子供にも大人にも漢字を読む便宜を図つてゐることです。今の出版物に此の配慮と想像力はない。漢字で書くべきところを平仮名にすることで日本人の識字能力と読書能力を劣化させることに手を貸す暇があつたら、この総ルビを振るといふ伝統を再興してもらいたい。この智恵の欠落に思ふことは、どうしても「戦後民主教育」の悪しき独善と独断のことであつて、子供子供と一見大事にしてゐるやうに見せかけながら実は子供を馬鹿にしてゐることなのであり、これは文部科学省の愚民政策に加担する罪を犯してゐるといふことである。私の経験と周囲にゐる子供たちの能力の観察によれば、子供といふものは大人よりも遥かに高い能力を持つてゐるものです。試しに子供と囲碁を打つて見たら良い。坂口安吾が近所の碁会所へ行つて、情けない位に子供にコロコロと、それこそ赤子の手をひねるが如くに負け続けて、何ともいひやうのない経験をしたことを率直に書いてゐるが、その通りです。私も同じ経験をして啞然としたこ

とがあるのでよくわかります。無能な大人が有能な子供達の能力を測定できる筈はないのである。さて、「結論」を以下に原書のままに示します。

結 論

全巻を通じて、いろいろ説明したが、文章を書く修業と云ふのは、結局人間を完成することである。雄辯など云ふことも、結局その人の人格思想を離れて存在しないごとく、文章も結局、その人の人格思想の現れである。「文藝春秋」が、創刊以來、各方面の人々に隨筆を書かしたことから、近頃ではいろいろの人が隨筆をかき風が盛んになつてゐるが、結局その隨筆は、その人の人格の匂ひである場合が多いのだ。人格を離れての雄辯、人格を離れての文章など、たとひ存在したとしても、眞に人を動かすに足るものでは

ない。

尾崎紅葉式の文章尊重は、舊いのであつて、彫心鑠骨の文章などは、大した意味はない。六十五點の人間は、机に向つて筆を管めていくら彫心鑠骨しても、六十七、八點の文章しか書けないのである。文章に苦心するなどよりも、一冊でも本を読んだ方がいゝ文章が書けるのである。だから、この「文章讀本」の目的も、文章の修業とは、字句や形容詞の使ひ方などではなく、もつと根本的なものと云ふことを知つて貰へばいゝのである。

それに、普通人は、一生の内、文章を書く機會は甚だ少いのである。小學校での綴り方の稽古も、綴り方そのものの稽古でなく、物をいかに観るか、物をいかに考へるべきかの稽古であるべきだと思ふ。下らない觀方や考へ方をして、それをいかに巧みな正確な文章で書いても、何にもならないのである。文章は、末の末である。思索や觀察が根本なのである。思索や觀察が秀

れて居れば、表現などは、いくら拙くつてもよいのである。また逆に、秀れた思索や觀察は、自ら秀れた表現を生むと云つてもよい位である。

だから、文章道の極致は、文章を無視することであるかも知れない。所謂鞍上鞍下人なく馬なしだ。文章を書くなど、云ふ意識がなく、眞に云はんと欲するところを、直截に云ふところに、名文が生れるかも知れないのだ。が、それと同時に、何人に對しても、自分の云はんと欲するところを、云つて耻ぢざる自信と覺悟とが、必要なのである。

その自信と覺悟とを培ふために、普段の教養が何よりも大切であらう。

この結論部と同じことを少し詳しく序論にかう書いてある：

「いい文章を習得することは、結局、人格を陶冶し、教養を高めることにほかならないのである。」「どうしたら、いい文章が書けるか。先（ま）づ物の觀方（みかた）、感じ方、考へ方を充分に確かにすることから出発しなければならない。」「（同書8ページ）

さうして、この「いい文章を習得すること」が、「先（ま）づ物の觀方（みかた）、感じ方、考へ方を充分に確かにすることから出発しなければならない」

と云ふ格好の例として、島崎藤村の写実に関する徹底的な観察の態度を実例としての文章を、この作家の『寫實』と題した文章から引用して肝心要のことを解説してゐます（同書114ページから117ページ）。

文章に実用と藝術の別がないのであれば、職業的な作家のものの観方に関する訓練が此れ程厳しいのであれば、実用の世界に生きる私たちもまたものを観る方法については同じ厳しさを要求されることになる。人情に溺れ、義理を欠くことを恐れて生きる人には、この厳しさは理解ができないであらう。ここには、浪花節は生まれるかも知れないが、しかし、批評は生まれぬ。詩精神（Poesie・ポエジー）も生まれぬ。

菊池寛は、「文章指導篇」の「1 文章の作り方」の章の「C どんな単語を選ぶか」で、谷崎の文章読本の内の「三用語について」の「○用語について」を引用し、また解説をして、この用語選択の重要性を述べてゐるが、この重要性の自覚は、この「『文章読本』論（1）」の「1 はじめに」に述べた私の自覚と同じであつて、

「川端康成の短い序文の文章は、この方の人生の悲しみを思はせ、それがそのまま明治以来の日本人の国民の哀切な心の思ひになつてゐることで、私は言葉を失ふのです。

「文章は、人と共に変り、時と共に移る。一つが消えれば、一つがあらはれる。文体の古び方の早さは思ひの外である。」」

と書いたところとに一致してゐるのです。菊池寛の言葉では、この同じ川端康成の文章読本の言葉が、次のやうに的確にいはれてゐる。今の私たちに足りないのは、この自覚です。この昭和の文人の自覚を令和の私たちも二十一世紀にあつて想ひ出し、言葉によつてゐる生活に用語の選択を厳しくし、生活の工夫をなすべきです。

「現在のわが國には、多種多様な不可解な語彙が混然としてゐる。

それは、わが國の文章のやうに、象形文字と音標文字を混用してゐる独特な形式を持つ以上やむを得ないかも知れない。

明治以来、歐米文化の急激な輸入は、わが國の文章の上にも、よからぬ影響をもたらした。そのため、西洋風な新造語が、言語の國境を破つて侵入して来た。

だが、今日（こんにち）はその整理時期である。

日本文の健全な發達の爲に、歐文の長所の中（うち）、容（い）れるべきものはとり入れ絶対に融合しない部分は捨てて、新しい文章を創るべきである。ちやうど語彙が長い間の中に日本文の一部となり、形式の新しい和漢混淆體が生れたやうに。

谷崎潤一郎は「文章讀本」の中で、用語について、獨自の見解を示してゐる。」（同書162ページから163ページ）とあつて、この後に谷崎の文章讀本からの引用が始まる。菊池寛の結論は、再度下記に引用する私の結論に一致してゐる。この、語彙の選別と選択と云ふ一点に於いて、谷崎純一郎と菊池寛、そして私の觀察は全く同じ事実を示してゐます。既に川端康成に於いてもさうでありますから、川端以降の昭和の現代作家たちの文章讀本の急所には、この日本語の語彙の選別と選択の問題があると考へて良いでせう。

「日本語の文法に明治以前も明治以後も全く違ひはないのに、日本語の語彙だけが海外からの語彙がカタカナと翻譯語になつて急激に入れ替はり立ち變はり国内に流入してきたために、私たちは近代日本文学できへ古典だといふことになつしまつてゐて、理解することに困難を覚える。従ひこのやうに言葉に流されて生きてゐて、鴨長明の『方丈記』の有名な一行にある通りに、流れに浮かぶ泡沫（うたかた）になつてゐるのではなく、その自覚が欠落してゐるために、流れに浮かぶ泡沫（うたかた）になり果ててゐるではありませんか？」

わたしが此の連載の初回の「1 はじめに」に指摘した事実、即ち文章讀本は全て昭和の時代に書かれたと云ふ事実に関して、これは一体何故かと云ふ問を立てて、この間に答へたい。小林秀雄の『菊池寛論』を読んで、以下に論じます。

【結論】

職業的作家が文章讀本を著す必要性を覚えてゐる理由は、自分たちの書く文章と、自分も含めた庶民の生活実感との間に乖離が生まれたからである。結果として事実とズレの生まれたことを書いてゐる私小説も含めて広義の小説と呼ぶことに此処ではすると、小説と事実の間に距離が生まれたのです。

【論証】

小林秀雄の『菊池寛論』の力を借りて、以下に論証します。この問題は、このまま今の令和の時代の問題そのものであることがよくわかります。次の四つの

引用は、批評家の目から見た日本の昭和の時代の歴史そのものに、期せずして、さうなつてゐます。

1。引用1：物書きが「描写の後ろに寝てゐる」怠惰

この引用中の作家を学者と読み替へても意味が通じる。要するに文章を書くことを専らにする人間たちのことです。さうであれば、ジャーナリストとか新聞記者とか評論家などと読み替へても良い。かういふ人間たちの書く文章と現実の中で起きる事実との間に乖離が生まれ、齟齬が起きるということは、平成30年間の最悪の時代を通じて令和の今に至つてゐることを考えると、次の小林秀雄の文章は今でも事実から離れることのない、新鮮であり、生き生きとした批評の文章であることが判る。文中「描写の後に寝てゐられぬ」とは、このやうな事実と乖離した文章を書いてゐた安穩としてゐられない作家の心情のことを言つてゐる当時の文壇の流行語です。当時の此の流行語を今使へば、今の学者・作家・ジャーナリスト・新聞記者・評論家の類の文章は皆、「描写の後に寝てゐる」文章ばかりだと云ふことになります。要するに、事実を結果として蔑（ないがし）ろにして、通俗的で無意味、有意義ならぬ言葉を不用意に並べて恥を搔いてゐる。と云ふことにすら気づかない。要するに、言葉が空疎であると云ふことです。そして、さういふ言葉を決して使はぬ用語選別と選択をする菊池寛といふ作家がどのやうな人間であるかも書かれてゐます。

「作家の専門的技巧といふものの威厳が、いろいろな原因から次第に怪しくなつた今日でこそ、描写の後ろに寝そべつてはおられぬ、といふ様な意見も言はれるが、大正文学が自然主義文学の平板な描写に抗し文壇の主流作家が争つて新描写法の探究に凝つた時に、その中に立ち混じつて描写の後に寝てゐられぬとはつきり宣言もし実行もしたのは菊池氏一人であつた。自然主義小説家達は美文の後に寝てゐられぬといふ革命家達だつたが、客観的描写の後には実によく寝た。客観的描写といふ小説の描写のうちでは一番大衆的なものが、わが国では優れた作家の手で遂に大衆化される機がなかつた事は考へてみると妙な事だ。」（新潮文庫『作家の顔』76ページから77ページ）

2。引用2：関東大震災と震災後の生活実感「人はパンで生きてゐる」といふ問題

小林秀雄は菊池寛の『文藝雑筆』から次の文章を引用してゐる。この引用は引用後の地の文でお判りの通り、関東大震災が文章による表現と庶民の生活実感の間に一層亀裂を生じせしめた歴史的事実の、二人による説明である。関東大震災の起きたのは大正十二年・1923年です。

「作家諸子は人生その物の観照に就いてはみんな大抵リアリストであるが、藝術と云ふものについては、みんな大抵ロマンチストである。(略)無論、藝術に対して、幻滅を感じれば藝術家としては、致命的である。が、然し人生のあらゆる事物の中で、藝術だけが日本の作家諸子の多くが考へるやうに disillusion-proof [引用者註：幻滅を退ける] のものだらうか。どうも、私には甚だ怪しく思はれるのである。」(「文藝雑筆」)

無論、これは理屈ではない。実感だ。当時の藝術的藝術に対する疑義が大震災の、人はパンによつて生きるといふ実感と結ばれたものだ。この率直な文章の書かれたのは大正十三年だが、かういふ考へ方の種は既に「作家凡庸主義」が書かれた頃からのものだ。主張するものは根本に於いて變つてゐないからである。(略)周知の如くこの問題が少なくとも文壇の中心部に於いて再び展開されたのはその後十年余り経つてからである。」(同書78ページから79ページ)

「周知の如くこの問題が少なくとも文壇の中心部に於いて再び展開されたのはその後十年余り経つてからである」といふのは、プロレタリア文学のことです。この文学流派の流行についても、小林秀雄のいふには「プロレタリア文学の運動は、文壇に文学の社会性に関する議論を沸騰させたが、結局議論倒れになつて作品の上で実際に民衆を掴む事には成功しなかつた。」(同書81ページ) この指摘の直前に、問題とすべき引用の三つ目の一節がある。

3。引用3：現代文学者の不安

「現代民衆の姿が明確に掴めないといふ不安は依然として同じだらうと思ふ。そしてこれは凡ての現代文学者の不安だ。」(同書81ページ)

そして引用2を飛び越え此の引用の後数行を隔てて次の引用4の文章がある。

4。引用4：作家は誰の為に書くのか

「要するに現代の民衆は純文学者の手にも負へない、在来の通俗文学者の手にも負へないといふ様なものになつて来てゐるのではあるまいか。」(同書81ページから82ページ) しかし、菊池寛「氏は最初から自分の為にも文学の為にも書かなかつた。批評家の為にも作家の為にも書かなかつた、ただ一般読者の為に書いて来た作家なのだ。」(同書82ページ) そして「氏の新聞小説はどれも当たり前な事が当たり前に書かれてゐる。殊に最近のものはいよいよ当り前になつた。そして大衆はまさしくこの当り前な処に最大の魅力を感じてゐるのである。」(同書83ページ) 「菊池氏の新聞小説には、もし通俗性とい

ふ言葉と大衆性といふ言葉をはつきり区別するなら、通俗性はない、大衆性だけがあるのだ。」（同書84ページ）「菊池氏はさういふ道を人々に先んじて歩いた。四十を前にして人生に就いて大いに惑ふといふ感想がある（「文藝雑事」）、落莫とした心持ちにどうにか活路を見つけねば自分は駄目になるだらうといふ意味の感想だが、どんな苦しみだか、それだけではさっぱりわからぬ。氏は作家として、さういふ個人的苦しみを語る必要を認めなかつたのである。恐らく筆を持たぬ多数の人々がやる様に、黙つて活路を見出してしまつたに相違ない。」（同書84ページ）

ここで菊池寛といふ人物を知つてもらふ為に、小林秀雄による菊池寛論の、志賀直哉の名を挙げて両者に言及し、職業的作家に観念的細工のない文章が書ける人が天才なのだといふ箇所を引用して、この章を終りにしたい。即ち、この場合、小林秀雄のいふ天才とは言葉による表現に嘘のないままで現実の事実を過不足なく書くことのできる言語能力のことである。これを菊池寛は写実と云ひ、その好例として島崎藤村のものを観る修練を日々積んだことを書いた文章のあることは上述の通り。

「範囲は勿論限られてゐるが、僕が会つた文学者のうちでこの人は天才だと強く感じる人は志賀直哉氏と菊池寛氏とだけである。取り合はせが妙に聞こえるかも知れない。敬愛の念が僕の観察眼を曇らせてゐるのかも知れない、が、ともかくもこれは僕の実感である。菊池氏の鋭敏さは志賀氏の鋭敏さと同様に当代の一流品だと思つてゐる。鋭敏さが端的で少しも観念的な細工のないところが類似してゐる。一般文士の敏感さくらゐ当てにならぬものも少ないので、商売柄ほんとに感じてゐない事を感じてゐるらしく書く習慣が身についてゐるから、巧まずして鈍感さを隠してゐるからだ。」（同書76ページ）

さて、以上引用1から4を省みて、次の事がいへる。これを此の章の締めくくりとしたい。

昭和の時代に文章読本が谷崎潤一郎と菊池寛の両名によつて数年をおかずに書かれねばならなかつた理由と動機は、関東大震災といふ天変地異の起こつたことにあるといふ事です。最初に掲げた年譜に関東大震災を加へると次のやうになります。いふまでもなく、谷崎は関東大震災後に関西に移住をして、『蓼食う虫』『吉野葛』『盲目物語』『武州公秘話』『春琴抄』『猫と庄造と二人の女』などの傑作を生み出し、また源氏物語の現代語訳に取り掛かるなどの充実した時代が始まるのは、やはり大震災で江戸の街並みが消失したからだと思

される。関東大震災は都市文化の江戸時代以来の継続性といふ点でも、東京の庶民に大きな苦しみとなつたに違ひない。ここに文筆家と現実の事実の間の乖離が生まれた。次の一覧とします。

刊行年 著者名（当時の年齢） 出生時代

【明治維新】 1868年・明治元年

(0) 1885・明治18年：坪内逍遙（26歳）安政生（江戸幕末）

【関東大震災】 1923年・大正12年

(1) 1934・昭和9年：谷崎潤一郎（49歳）明治生

(2) 1937・昭和12年：菊池寛（49歳）明治生

私が此の章の最後にいひたいことは、関東大震災がさうであるならば、次の二つの大震災を経験した平成の時代には、やはり職業的な物書きと現実的事実の間に、といふことは当の本人の意識と論理的事実との間にも乖離が生まれ、双方が分裂状態に陥つたことを想像することは難しいことではないといふこと、この事に、あなたの注意を喚起したいと思ふ。

1995年・平成9年：阪神・淡路大震災

2011年・平成23年：三陸沖地震

一つではなく、二つもの、しかも東西の大地震に前後してある期間に、関東大震災の後と同じ齟齬が両者の間に生じてゐることは、もはや現実であると理解して良いのではないか。このことに自覚のある職業的な物書きが、今の日本に何人ゐるのか。

平成の30年間は経済的にも政治的にも日本の国民にとつては最悪の30年間であつたわけですが、これを文化の、即ち文学といふ言語の方面から眺めても同様にさうである事実と文章の乖離・分裂の30年間であつたことは、20世紀の地上波・大手新聞社などの物理層の媒体・メディアによる捏造報道・虚偽報道の濫発の事実と一切の反省のない無道徳な状態の出現、及び論理層にある媒体・メディアである大手ITプラットフォーム企業による偏向した日本国憲法第二十一条違反の検閲が、この30年間の時代の姿を文章読本の視点からも明らかにしてゐる。極左・共産主義者による文化の捏造までもが流行して止まず今日に尚至つてゐるといふ体たらくである。結局、これらの原因は、

(1) 日本語として適切・的確なる語彙の選別と選択、及び

(2) 日本語による様式・style・スタイル・文体の確立

といふ此の二つの事を、私たちは疎かにして来たからであるといふ事が、ここまで書いて来てよくわかります。あなたに於かれてもどうか肝に銘じてほしい、これは歴史的な事実です。

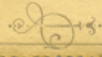
志賀直哉にあつてはいふまでもなく、天才菊池寛の偉業に感謝しつつ（通俗性を排して大衆の為に書くことに成功したが故に文壇からは誤解されて軽んじられた）、次の章に参りたい。

しかし、「通俗性を排して大衆の為に書くことに成功したが故に文壇からは誤解されて軽んじられた」と書いてみると、安部公房の文学に対する誤解と、この作家の文学の性格の説明になつてゐることに気づきます。安部公房が菊池寛と全く同様に通俗性を排した大衆性を大切にして、小説・ミュージカルス・演劇・映画批評で活動した其の志は、評論集『砂漠の思想』によく書かれてゐる。この評論集については、「『砂漠の思想』を読む」と題して読解を試みました（もぐら通信第114号から第123号）。安部公房がアメリカ文化の持つ大衆性に初期から晩年に至るまで、その関心は姿を変へ、また書き方としても手を変へ品を変へて、関心を持ち続けたことは、読者ご存知の通りです。『もぐら日記』は、この意味でも重要です。この遺作では、同じ関心が遺伝子生物学、動物行動学、そして依然として安部公房の終生の問題である言語が終始一貫した思索の対象となつてゐるからです。『もぐら日記』については、『砂漠の思想』と同様に読解を後日試みたい。といふことは、『もぐら日記』は、姿形を変へた『砂漠の思想』だといふことになります。この章の最後に章のまとめの一覧表を「文章読本からみた近代日本史」と題して掲げます。章の進むごとに順次新しくして行きます。

2021/09/12 eiya iwata							
文章読本からみた近代日本史							
元号	元号の年数	西暦	事変	作家名	作品名	備考	
明治	元年	1868	明治維新			日本の作家にとって、この間の文章上の問題は常に、語彙の選別と文体・style・様式の確立の問題であつた。	
	18	1885		坪内逍遙	小説神髓		
				同上	当世書生氣質		1886年まで連載
30	1897		尾崎紅葉	金色夜叉			
大正	12	1923	関東大震災	谷崎潤一郎			関西へ移住
昭和	9	1934		谷崎潤一郎	文章読本		
	12	1937		小林秀雄	菊池寛論		
			菊池寛	文章読本			
平成	7	1995	阪神・淡路大震災				平成の30年間は文章と生活実感の乖離した30年間であつた。これが文章読本から見た平成の30年間である。経済の面では失はれた30年。文化の面では報道記事の事実を裏切る捏造・虚報ばかりの30年であつた。
	12	1937	三陸沖地震				
令和	元年	2019					



もぐら通信



5。1950・昭和25：川端康成（51歳）明治生

（以下次号）

私の本棚（39）

ノーム・チョムスキー著

『メディア・コントロール』を読む

岩田英哉

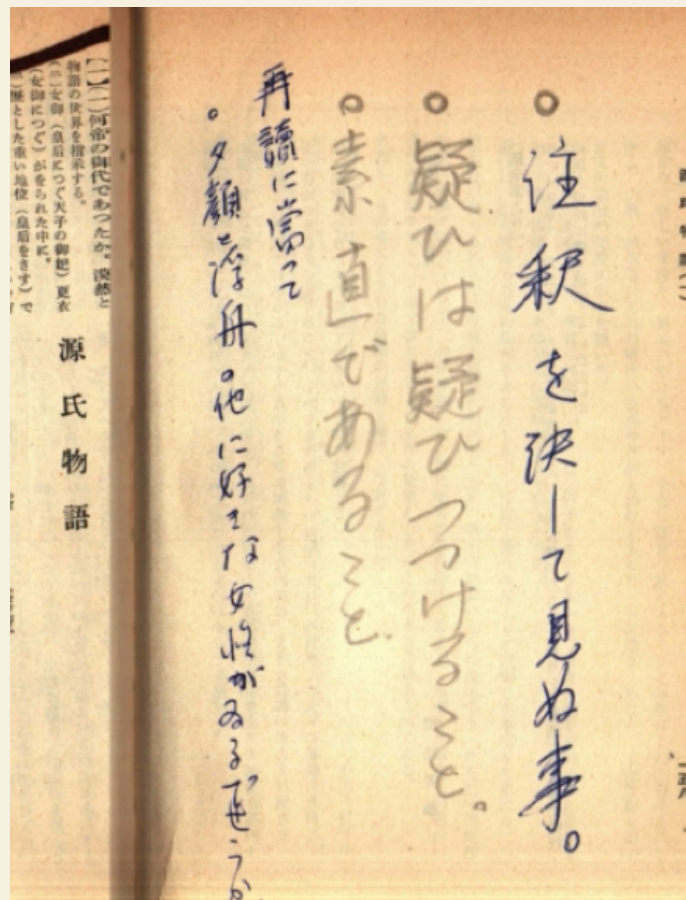
次号とします。

Mole Hole Letter (63)

超越論 II (第六回)

岩田英哉

その前に、私が源氏物語を読むために立てた読書方針を示します。



これは全7巻になる朝日新聞社刊行の『源氏物語』の校註者池田亀鑑氏の長い解題・梗概・系譜・凡例(全部で158ページ)の後に本文の始まる前の白紙の1ページに、いよいよ物語が始まるとして、当時の私の書き付けた読書方針です。



今見ると全部で三箇条ありますが、最初の条はペン書きで、そのあとの二つを見ると鉛筆書きですから、この方針の眼目はやはり一切註釈を見ずに源氏物語を読み通すといふところにあります。古語辞典も引かないといふ決心であつたので、この最初の条の意図は、人に頼らずに自分だけの力で原文を読み通し読み抜くといふことであつた。結局この方針は、ドイツ語で書物を読むところにまで及んだ。この方針は、ドイツ語学の泰斗関口存男が陸軍幼年士官学校に入校の後16・17歳のころにドイツ語訳の『罪と罰』辞書を引かずに文字と睨めつこしながら数百ページを数年かけて読んで行つたら、或る時天啓のやうに隅から隅までドイツ語の文章の意味が曖昧なところひとつもなく理解せられたといふのに同じ読書法でした〔註1〕。私には其の天啓はこなかつたが、しかし、日本語の美しさは感得したものと思ふ。

〔註1〕

ドイツ語学の泰斗関口存男は陸軍幼年士官学校の時に、ドイツ語訳のドストエフスキーの『罪と罰』を辞書も引かず毎日毎日二年間、「千頁もある本を、わけもわからぬままに、二年ばかりかかつて、数百頁読みました。するとどうでせう、おしまひ頃には、なんだか……わかり出したんです！」（三修社『関口存男の生涯と業績』55ページ）別の文章で読んだのでは、ある日天啓を受けたやうに一瞬で全部一冊理解したことを知つたと書いてあります。これが此の学校に入学して二年といふのですから、16・17歳の時です。ドイツ語の泰斗と書きましたが、正しくは語学の天才です。ラテン語をアテネ・フランセに一年通つて次の年には其処で教へてみた。この方のドイツ語学の文法書を読むとフランス語、英語、ラテン語、ギリシャ語、イタリア語と、ドイツ語の文法事項を説明するために必要な局面では何でも出て来ます。

最初の一箇条がペン書きであとの二箇条は鉛筆書きだといふことは、あとの二つは時間を置いてか日を置いてか、遅れて追加したものと思ふ。その間、註釈に頼らずに原文を読むにはどうしたら良いかを考へたに違ひない。それが、まづ二つめの「疑ひは疑ひ続けること」とあつて「つつける」と濁音の記号を使つてゐないのは、この時相当に平安時代の言葉の表記に、なんといつたら良いか、まあ、殺（や）られてゐたからでせう。この第二箇条は、私を後年デカルトへと連れて行つた。文字と言葉と意味と読者と作中人物の世界といふこれらの関係に関する考察も幼い形で多分したものと思はれる。この経験が後年これもまた安部公房に私を連れていつた重要な遠因の一つではないかと思ふ。全集中、安部公房はデカルトについての言及は二箇所しかないが、当時の哲学談義を親しく交はした友、中埜肇の証言によれば、成城高校時代の安部公房はフッサールの現象学の解釈にデカルトの立場から解釈をして理解をしてゐたとありますから、この作家の常で、表に出さずに秘しておくものほど作家の命に関は



るほど大切なものだといふ私の理解を此处で応用してみれば、安部公房にとってデカルトは非常に重要な哲学者であつたのです〔註2〕。

〔註2〕

成城高校時代の親しき、哲学談義を交わした友、中埜肇が次のような安部公房の姿を書き残しております。以下傍線は筆者。

「たしか高校二年の夏休前のことではなかったろうか。彼の方からそれまで全く面識のなかった私に、話したいことがあると言って接触を求めてきた。時と所をきめて改めて会うや否や、彼はいきなり私に向かって「君は解釈学についてどう思う」と切り出した。（その時の彼の言葉だけは五十年以上経った今でも私の耳にはっきりと残っている。）当時既に日本でもハイデッガーの『存在と時間』の翻訳が出版され、わが国の哲学界や思想的ジャーナリズムにも「解釈学的現象学」という言葉が姿を見せていた。（中略）当時の安部は「解釈学」という言葉をむしろデカルト的な懐疑の方法に近い意味に解していた。」（『安部公房・荒野の人』35ページ）

安部公房は、デカルトの『方法叙説』と解析幾何学の本を読んでいたのです。デカルトは、バロックの哲学者であり数学者です。

安部公房が中埜肇に初めて会ったときに発した「君は解釈学についてどう思う」という問いは、18歳に成城高校の校友誌『城』に発表した『問題下降に拠る肯定の批判』の中で安部公房が、わたしは普通の社会の人間とは違って「座標 軸なしで物を考えるのだといい、「一体座標なくして判断は有り得ないものだろうか」と問い、この問いの答えが、この論文の副題「是こそ大いなる蟻の巣を輝らす光である」という言葉の由来である「これこそ雲間より洩れ来る一条の光なのである」といい、この一条の光こそが、この蟻の生きる閉鎖空間から脱出をするための唯一の方法であり、その方法とは、「遊歩場」という「道」、即ち時間も空間もない抽象的な上位の次元の位相幾何学的な場所の創造であり、その為の方法が「問題下降に拠る肯定の批判」だといっています。

また、中埜肇の言う「当時の安部は「解釈学」という言葉をむしろデカルト的な懐疑の方法に近い意味に解していた。」という正確な理解については、晩年安部公房自身が、デカルト的思考と自分独自の実存主義に関する理解と仮面についての次の発言がある（『安部公房氏と語る』全集第28巻、478ページ下段から479ページ上段）。ジュリー・ブロックとのインタビュー。1989年、安部公房65歳。傍線筆者。

「ブロック 先生は非常に西洋的であるという説があるけれども、その理由の一つはアイデンティティのことを問題になさるからでしょう。片一方は「他人」であり、もう片一方は「顔」である、というような。フランス語でアイデンティティは「ジュ（私）」です。アイデンティティの問題を考えると、いつも「ジュ」が答えです。でも、先生の本を読んで、「ジュ」という答えができませんでした。それで私は、数学のように方程式をつくれれば、答えのXが現れると思いました。でも、そのような私の考え方すべてがちがうことに気づき、五年前から勉強を始めて、四年十月月、「私」を探しつづけました。



安部 これは全然批評的な意見ではないんだけど、フランス人の場合、たとえば実存主義というような考え方をするのはわりに楽でしょう。そういう場合の原則というのは、「存在は本質に先行する」ということだけれども、実は「私」というのは本質なんです。そして、「仮面」が実存である。だから、常に実存が先行しなければ、それは観念論になってしまうということです。

ブロック それは、西洋的な考えにおいてですか。

安部 そうですね。だけど、これはどちらかというと、いわゆるカルテジアン（引用者註：「デカルト的な」の意味）の考え方に近いので、英米では蹴られる思考ですけどね。」

既に18歳の安部公房は、この晩年の発言にある認識に至っていたということがわかります。そして、何故 ジュリー・ブロックが「でも、先生の本を読んで、「ジュ」という答えがでて来ないかという理由を、上の二つの表（マトリクス） [引用者：省略します] は示しています。

ここには、「ジュ（私）」は有りません。何故ならば、それは、安部公房のいう通り、「実は「私」というのは本質」であるからです。何故ならば、本質とは、実体のあるものではなく、差異であり、関数だからです。

この、安部公房のいう「私」を、西洋の哲学用語で、subject（主観、主体、主辞、主語）と言うのです。

上に表にした、実体の無い、関係概念としての、安部公房のいう此のsubject（「ジュ（私）」）の概念を理解することは、安部公房の文学を理解するために大変大切です。「実は「私」というのは本質なんです。そして、「仮面」が実存である。だから、常に実存が先行しなければ、それは観念論になってしまうということです。」という安部公房の発言をよくお考え下さい。上の表は、次のところでダウンロードすることができます：<https://ja.scribd.com/doc/266831849/安部公房の読者と作者-我と自我-主体と客体の関係-差異>

以上がひとつめの例。二つめの例は、次のインタビュー『錨なき方舟の時代』に於いてあるものです（全集第27巻167ページ下段から168ページ上段）。

「安部 実存は本質に先行するという実存主義の基本概念、本質というのは一つの規定観念であり、その規定作業の前にもっと未分化の実存が先行しているという考え方、それがなぜぼくにとってそれほど重要な思想だったかということ、やはり戦争中だったからだと思う。

（略）（この後、当時の授業でならふ「八紘一字」や「万世一系」といふ教へと、他方理科の時間に教はる物理学や進化論との矛盾についての言及があり、戦時下での此の教はることの矛盾と15・16歳位の少年の関心の進展についての言及があつて、この後に）

いずれ何処かで整合性を求めるようになる。その頃だよ、一種の非合理精神が哲学の衣装をまとうって登場してくるんだ。「絶対矛盾の自己同一」だったっけ。はっきり覚えていないけど、哲学というより、まじないみたいなものだったな。とにかく非合理を論証しようとするわけだ。論証の拒絶よりはまだ良心的かもしれないけど、論証という作業自体がもともと合理性を前提にしたものだからね、成り立つわけがない。まさに催眠術的レトリックさ。



ああいう状態はかえって哲学的飢餓感を生むんじゃないかな。合理性の欠落をなんとか埋めようとする衝動だ。その穴埋めのために探し当てたのが実存主義だったというわけだ。本当に理解出来たとは思わないけど、ぼくには必要な考え方だった。

いまになって見ると、ヘーゲルでもよかったのかもしれないという気がする。事実ヘーゲルにむかった連中もいたよ。そっちのほうが秀才タイプだった。どっちにしても今はもうあまり興味がない。デジタル的な整合性だけでもものは創れないからね。」

ヘーゲルに向かった秀才タイプだった若者の一人が、中塾肇でした。中塾肇の証言通り、安部公房は、ヘーゲルに相対立するデカルトだったのです。安部公房は終生自分の意見と正反対に対立する友人を大切にしました。成城高校時代の中塾肇がさうであり、作家として世に出てからは最後まで三島由紀夫が最も親しき友でした。

いふまでもなく、デカルトは超越論の哲学者です。吾思ふ、故に我有りと普通和訳されてある原文フランス語の、この哲学者の思考原理の「故に」には時間は入ってゐないからです。ドイツ語訳を参照すると、

Ich denke, also bin ich/イッヒ・デンケ・アルゾー・ビン・イッヒ

とあるので、alsoは訳によつてはsoとのみあることもあり、後半のbin ichは、前半のich denkeの言ひ換へですから、デカルトの趣旨は、

吾思ふ＝吾は存在する

といふ意味であつて、即ち此処に早や、思考と存在の問題が提示されてゐて、デカルトはデカルト流に此の問題を解いたといつてゐるのです。もつと、この公式を解釈すれば、

私が存在することは、思考することによつてである

といふ意味になります。

デカルトが何故彼らの自ら名付けた近代・modern・モダンと呼ぶ時代の出発点にあつて重要な哲学者かといふと、この人は中世スコラ哲学の問題を独自独力で解決をしたからです。この場合、デカルトの採用した概念は比率です。比率でものを考へるといふことです（『方法叙説』）。比率でものを考へるので、時間は思考の中には存在してゐない。このことによつて、スコラ哲学者たちが遂に答を出せなかつた問、即ち時間とは何かといふ問自体に答へることな



く、この問題を解決した。

スコラ哲学が唯一絶対神の存在証明として思考の規矩・クライテリアと考へ、そして私が名前がないのでかく名付けた「唯一絶対神存在証明三基準」または「三基準同時不定立」といふ基準による時間の中での消極的間接証明では不十分なのです。何故ならば、これは足し算だけの世界であつて、幾ら計算を繰り返しても無限に今が続くだけだからです。足し算は時間の中での計算です。しかしデカルトの計算は比率であり、掛け算ですから時間を超越してゐる。即ち、ここに於いて、デカルトは中世スコラ哲学を打ち破つて、唯一絶対神の存在証明のための一つ上の次元の道を開いた。しかしその後のヨーロッパの哲学の歴史は、殊にヘーゲル以降は共産主義化の歴史であつて二十一世紀に至るまでの混乱を招いてゐることは既述・既論の通りで、チョムスキーといふ安部公房の好んで晩年論じたアメリカの言語学者も、デカルトの偉業を台無しにした此の無駄な数百年に激しい批判を繰り返したこともあちこちで述べたので繰り返しません。民主主義の普及と相俟つて共産主義が普及するといふのも、私には超越論の視点から眺めれば、何か大陸といふ大地の土壤に最初から撒かれてゐる種であるか、地質そのものが共産主義性といふ毒性の高い質を含んでゐるとしか思へないし、さう思ふ方が彼らの文化を理解することが、民主主義といふ共産主義の一形態の理解も含めて、よくわかるからです。この場合、このことに気づいてゐるチョムスキーがユダヤ人であるといふ事実には、歴史的にみて、間違ひなく言語学を超えた理由があると私は思ふ。さて、

『哲学の問題101 (4) 自然 (10)』もぐら通信第87号)より当該箇所を再掲します：

「スコラ哲学の唯一絶対神存在証明三基準について、八木雄二著『神を哲学した中世—ヨーロッパ精神の源流—』より以下の箇所を引用します。良書です。

「中世の議論をより深く理解してもらうために、もう少しギリシャ哲学の本質について述べておきたい。(略) こうした哲学用語を学ぶことは、いわば子供が自転車に乗る練習をするときに補助輪をつけるようなもので、それに頼っていると、むしろいつまでたつても自転車に乗れるようにならない。補助輪を捨てて、自転車の両輪だけで乗る練習をする必要がある。では、哲学において、その両輪に当たるものは何かと言えば、それは「より大とより小」、「全体と部分」、「一と多」という三つの対である。この三対を使いこなすことができるようになれば、哲学はむずかしくない。(略) じつのところ普遍論争は



「全体と部分」及び「一と多」の論であり、後に説明するアンセルムスの神の存在証明には、「より大とより小」の論理が使われている。また神と被造物の関係は、「一と多」の関係なのである。むずかしい言い方をすれば、たしかにこれらの対は「超越論」的に用いられる。超越論的に用いられて、じつは形而上学を可能にする。(略) 基本をみて見よう。そのためには、三つの対同士をぶつける。(略)

なんだか三すくみのようで頭が混乱するかもしれないが、ようするに三つの対はうまく整合しない。「多」は「一」と比べて「より大」であるにもかかわらず、「多」は「部分」と一致するのだから「全体」たる「一」と比べて「より小」でもある。ここに紹介した三つの対は、プラトンが『パルメニデス』で示した哲学分析の道具である。哲学するためにはこの道具を使いこなす必要がある。」(同書「ギリシャ哲学という道具」より)」「(『哲学の問題101 (4) 自然 (10)』もぐら通信第87号)

余談ながら、デカルトの『方法叙説』を「方法序説」と表記するのは間違いです。落合太郎訳は正しく『方法叙説』となつてゐるのは、原題がdiscourse de la methode (方法の叙説)とあるからです。discourseとは、体系的に議論を尽くすこと、そのやうな対論をすることです。[註3]で赤字にした語に体系的と私のいふ意味が含まれてゐる。

[註3]

discourse noun

Definition of discourse (Entry 1 of 2)

1: verbal interchange of ideas

especially : CONVERSATION

2

a: **formal and orderly** and usually extended expression of thought on a subject

b: connected speech or writing

c: a linguistic **unit** (such as a conversation or a story) larger than a sentence

3: a mode of organizing knowledge, ideas, or experience that is rooted in language and its concrete contexts (such as history or institutions)

critical discourse

4 archaic : the capacity of **orderly** thought or procedure :

RATIONALITY

5 obsolete : social familiarity



デカルトついでにもう一言いへば、デカルトは空間を延長であると『方法叙説』で述べてゐますが、読んで私はおかしいと思つた。その時にはまだ私には宇宙原理の第一項「世界は差異である」は確定的にあつた訳ではなかつたので、これは疑ひに留まりましたが、しかし疑ひの根拠は、もし空間が延長であれば—そしてデカルトは明らかに論理学の外延・延長・extensiveを念頭に置いて空間の定義をしてゐるのですが—、これではやはり時間の中の計算に留まつてしまひ、折角比率で時間を取り払つてものを考へたことと矛盾するからです。つまり、時間とは何かといふ問を回避して上手な思考回路の設計をしたが、やはり回避したといふ報ひが此処に現れてゐるのだといふことが、今かう書いて来てよく解ります。しかし、哲学者にして解析幾何学の創始者たる数学者デカルトは素晴らしい。細かくは此処では書きませんが、デカルトは私の人生の大切な指針であり羅針盤でした。これは今も変はりません。優れた日本の翻訳者に感謝したい。私はデカルトは日本語訳だけを読みました。ちなみにデカルトのいふ空間であるといふ延長とは論理学用語でextensive・イクステンシヴのこと、即ち時間の中での足し算です。これに対して内包・intensive・インテンシヴといふ用語があつて、これは掛け算のことです。従ひ内包には時間は存在しない。本居宣長は前者を「然（しか）いふ本（もと）の意」（英語の一般用語でいふsense・意義）と呼び、後者を「用ひたる意」（英語の一般用語でいふmeaning・意味）と呼んだ（『玉勝間（八の巻）』）。この論理学を宣長は独力で生み出した。さうして源氏物語を読んで「紫文要領」を書いた。

さて、長い余談となりましたが、第三箇条の「素直であること」といふ心を説明します。これは、結論からいふと、私を小林秀雄に連れて行きました。素直、直き心といふ心は、要するに、文章を虚心坦懐に読むといふこと、一切の先入見を排して、己を虚しふして一切の雑念を入れず、只々ひたすら文意を汲み取ること、といふ意味です。読むたびに新しく自分自身を無にし真つ新（さら）の更地にしてゼロから読み直すといふ意味であり、心です。更に要するに、自己の初心に立ち返るといふこと、書き手の初心を求めるといふことです。

文章といふものを、個別言語によらずに、いつも読んで考へたことは、一体文章を読むといふが何を私は読むのであろうか？といふ問です。小林秀雄は特にさうは文字にしてはゐないし、してゐるのはほんの一度か二度程度ですが、この優れた批評家のいふことには、文章に書き手の人生を読むのだ、行間に書き手の人生観を読み、生き方を読み取るのだといふ考へなのですが、私はさうかも知れないと思ひつつも、この読書方針を世の中で仕事をしながら職場で職業的な文書を読むたびに実際に疑ひ、小林秀雄の規準・クライテリアが果たして正しいかを何度も何度も吟味を繰り返しました。小林秀雄の読書規準に対抗する反対の考へは、文章は論理であつて、そこに何が主張されてゐるのかを正確に読みとることであるといふものですが、これはこれで正しいやうに思考未熟

な私には思はれた。そして何度も、この間を往復して考へに考へた結論が、小林秀雄が正しいといふ結論でした。考へてみれば、私が文学を選んだのも誰かの主張する論理の正しさを知りたいがためのみではなく、やはり信頼するに足る人生観の持ち主に出逢ひたいといふ思ひのあつたことを思ひ出すのです。さうして、読書を重ね、夥（おびただ）しい量の文章を読んでゐるうちに、次に引用する菊池寛と同じ感懐に至つた。私自身がこのやうに書いた菊池寛の境地に至つた。

「文章を読んだだけで、大體その人の教養や知識の程度がわかるものである。

小説を書きたいから指導してくれだとか、原稿を書いたから読んでくれとか云つて来る人があるが、原稿を見ないでも、手紙だけでその人が小説が書けるか書けないか、大抵判る。

教養の高い人の文章は、何處となく教養の高さが匂つてゐる。平常文章を書きつけない人の文章でも、何處かに人格の閃きが現れてゐるものだ。

「文は人なり」と云つたのは高山樗牛であるが、この言葉は正しい。數行の文章の中に、その人の全部が現れるものである。

英傑、偉人に、名文家の多いのも、このためだ。

(略)

どうしたら、いい文章が書けるか。先づ物の観方、感じ方、考へ方を十分に確かにすることから出発しなければならない。云ひ換へれば、いい文章を習得することは、結局、人格を陶冶し、教養を高めることにほかならないのである。」（『文章読本』の「序論」第二節「文章は人間完成である」）

ここに大学文教育にある文学部と文理を問はぬ一般教養科目の本質的な意義があつた筈である。これらをなくしてしまつた今の教育の頹廢は、世の中を生きる大人たちの道德の頹廢である。要するに、自己に正直に素直に生きる大人たちが少ないといふことになります。さういふ大人達を否定して若者には育つて欲しい。そのために古典を読んで欲しい。

最後の註記を読むと、私は最初の読了のあと、確かに間をおかずに二度目の読みに入つた記憶がありますが、途中で読み鎖（さ）してしまつたのは何か理由のあつたことでせう。しかし、そこに書いた通りに、最初の読書で私の好きになつた女性の名前が二人挙げてあつて、一人は夕顔であり、もう一人は浮舟であることが解ります。確かに今に至るも、この二人の女性のことは何かの折につけて思ひ出されるといふことは、男である私の性格の何かを暗示してゐるものと思はれます。



谷崎潤一郎は源氏物語を現代語に翻訳してみながら、光源氏といふ奴は煮ても焼いても食えぬ本当に私は大嫌いな男だと何処かに書いてある。それは何故かといふと、谷崎は実際氏に固有特有の、女性に対する好み・嗜好といふものの確立した性格の持ち主である（その母性恋慕と女性の足に対するフェティズムも含めて）のに対して、光源氏は女性に対して全く特定の性格のない男であるからです。しかし、かういふ男性の主人公を、当時の宮中といふ枠組みを利用して創造した紫式部といふ女性の観察眼の鋭さと、男女の恋愛の感情の機微、即ち本居宣長のいふもののあはれを描いた筆力は、どう考へても驚くべきことだと思ふ。この源氏物語のもつ現代性については、中村真一郎が『小説とは本当は何か』の中の一章「日本における小説の伝統」の中の一節「『源氏物語』の現代性」で述べていることが現代と源氏物語の作者紫式部についての解説であつて面白い（同書60ページから62ページ）。シモーヌ・ド・ボーヴォワールが「今から三〇年前に日本へ来た時に」（本の出版は1992年）、世界文学の舞台上で父親から男と同じ教育を受けた女流の優れた文学者の名前を二名挙げて、一人はヴァージニア・ウルフ、もう一人が紫式部だといつたことが書かれてある。あなたがフェミニストを自称するならば、これ位の教養を必要とします。要するに、フェミニストを名乗りたければ源氏物語を読めといふことです。

今の世に、嘆くも遅し、アメリカから輸入してこれも跳梁跋扈するセクハラなる無意味なカタカナ文字の日本語を意味も考へずに使つて、一神教の偽善の道徳に軽佻浮薄に生きる女には、源氏物語を読む能力はなく、これがかくも浅ましき無教養の女にへつらふ男であれば、この手の男もまた源氏物語を読む能力と資格を欠く。国文学の行く末は大丈夫であらうか。なんとすれば、色好みこそ、折口信夫博士のいふ私たちのモラル・センスであるからです。道徳感覚と訳します。理屈ではないし、ましてや法律論など論外である。文化はどこへ行つたか。文化の核心は恋にある。此処でソクラテスに頼るほど私たちは愚かであるのか。

私の人生の計画の線表によれば、私は0歳から30歳の間までの理論篇の書物として源氏物語一書を挙げてある。これは当時から理論と実践の二つに私はものを分けて考へてあることを示してゐて、どんな領域でも私は習ふより慣れろではなく、習ふ基礎理論を、なければ自分で構築し、あれば其れを疑へといふことでやつてきましたので、なるほどさうかと思ひ、確かに勉強するとは理論と実践の繰り返しだと思ひます。この線表によれば50歳までの実践篇の線が引いてある。

夕顔といふ私の選り好みは、理屈をつけて今解けば、光源氏にあされながら時間の中で儚く死んでしまふ女性であり（一子あり）、他方、浮舟は光源氏の息子の薫の君と匂ひの宮の双方の男性から愛されて、また当人も双方を愛してしまふこ



とから板挟みになつて、横川といふ川への身投げの其の動機の解釈は幾つもありませうが、いづれにせよ、この女性は時間と空間の因果律と無縁に、ふと本人が気がついたら林の中に横たはつてゐた、といふ女性であり、その後は出家して身を隠して生きる女性です。お互ひがお互ひの両極端に、愛の成就することのない位置に位置する女性であると考へることができます。

芥川龍之介も谷崎潤一郎も色好みを主題にした秀作を残してゐる。小林秀雄には『好色文学』と題した批評がある。あなたが好色といふ日本語の意味が理解できなければ此処で日本語の辞書を引いて欲しい。

「文学を通じてみられる平安期の貴族の恋愛が、趣味的であり、遊戯的であつたといふ風に言ひ捨てるのは容易であるが、「おもむき」とか「あそび」とかいふ言葉が、当時の人の生活にどんな意味を持つてゐたか、どの様な生活信条を現してゐたかを想像する事はもはや私達には難しい事である。「源氏物語」といふ好色文学の傑作は、さういふ難しさの中から生まれた。

宣長は、「源氏物語」の根本の観念は、「物のあはれ」であると苦もなく断じた。今日の学者には、これについて綿密な議論もあるであらうが、私はよく知らない。ただ私は、宣長の自然な素直な論が好きなのである。人間に一番興味ある「物」は、人間であらうし、一番激しい興味は恋愛の情にあるだらう。恋歌は詩の基だ。「あはれ」は殆どすべての種類の感情感動を指す語だが、悲哀傷心は、人の最も深い感情であらう。悲しみは、行為となつて拡散せず、内に向つて己を噛むからである。仏教思想の「源氏」への影響は否定し難いであらうが、これは、宣長が考へた通り、紫式部は、「物のあはれ」の趣に適つただけを、仏教に見たと解するのが正しいだらう。仏教は知的教養であつたし、「物のあはれ」は生活的思想だつたに違ひないから。遡つて行けば歌の発端に出会ふであらう。倭建命と其の後等の恋歌は、まことにあはれなのである。

「新古今」を尊敬した宣長は、言語の「あや」について、時流を全く抜いた卓見を持つてゐた。ありのままの心とか、自然な感情の動きとかいふものも亦一種の審美的な詩的な観念であり、言葉の「あや」がなければ、まことらしさも自然らしきもない事を、彼は直覚してゐた。思ひ余つた人でなければ、歌ひはしない。余るところに自ら綾が生ずるのである。性欲は満ち足りて終るが、いつも余つてゐるのは恋情であらう。そして、悲しみの情は、一番よく「あや」を教へた。悲しみとは、一番よく己を知る感情だからだ。」（『真贋』昭和二十五年五月）



物のあはれは、コカコーラやハンバーガーのやうに無教養な人間でも誰でも味はふことにできる感情ではない。おのづと（このおのづと・自然にといふことが肝心なのである）知られるには、我が国では古典的教養を必要とするのである。日本人ならば、それ位日本の文化を勉強してから、フェミニストを名乗ってもらひたい。もののあはれ、即ち世の男女の恋と愛は、自動販売機に金を入れたら簡単に下の出口から音立てて出てくるものではない。ちなみに、素直な心でいふが、私はフェミニストである。光源氏はフェミニストか？然り、これほど男として無性格に女性を愛する男はゐないではないか。谷崎の現実の女性に対する自己中心的な自我の強い残酷な扱ひをみれば、よくわかるのである。私は光源氏にはなりたいが、谷崎潤一郎にはなりたくない。即ち、あらゆる性格を男として欠いてゐる光源氏は時間と空間を超越した男なのです。だから雲隠れの巻に書かれたまま依然として二十一世紀に光源氏は生きてゐる。雲隠れとは月のする事ですから、やはり此処でも光源氏の光とは月の光のことになります。月と天之御中主神については、伊勢神宮の構造も含めて『縄文紀元論』にて詳細に、言語の観点から論じました。

何？古典を読んで勉強するのは嫌だ？それなら、最短最速の道は、あなたが素直な心で日本人であることに努めること、これに尽きます。私のフェミニズムを巡る結論は、男は男らしく、女は女らしくあれといふに尽きます。「らしき」といふことが、小林秀雄のいふ恋愛の綾・あやであるからであり、このアヤは余剰であつて、文化的な富の蓄積の上にあるからです。今の日本の貧しさを思へ。ところで、この性愛の貧しさと引き換へに、あなたは金持ちになつたのか。と自問自答してもらひたい。

さて、三度目で完成した言語宇宙モデルを提示します。これを見て知つたとして、あなたは金持ちにはならないが、物のあはれを深く知るでせう。これは、このまま縄文人としての今もある私たちの宇宙観にほかなりません。日本語の構造といつてもよいものです。とはいへ、ここまで概念化し抽象度を挙げて高次元の姿で示しますので、日本語特殊の問題ではなく、この言語モデルは普遍宇宙モデルとして良いものであり、さうであれば、世界中の個別言語に通用するものです。

（以下次号に続く）



サンチョ・パンサを求めて

(15)

ソクラテスは何故哲学者か (2)

II ソクラテスの対話の様式

岩田英哉

『饗宴』といふ作品を題材にとるのは、ここに哲学の本質が、その構造化の有様も含めて、よく語られてあるからです。構造化を階層化といつても良い。この階層化は話法の階層化といつても良い。話法の原語は英語ならばmodeであり、大江健三郎のよく選択するnarrativeといつても良い。二語があるといふことは、一語で日本語の話法といつても、それぞれ意味の共通の適用範囲（内包・intensive・インテンシヴ）と異なる適用範囲（外延・extensive・イクステンシヴ）があるわけで、これについては後述します。英語と日本語に跨がる概念同士の整理をすると次のやうになります。

20180709			
岩田英哉			
もぐら通信	分類のためのフォーマット		
	分類の定義：分類とは概念を定義することである。		
	概念のカテゴリー	定義のカテゴリー	補足説明のカテゴリー
	一体何についての概念なのか	同義語、類義語	和漢混濁文、実感の世界、自分の言葉の体系の世界
	吾輩は	猫である	名前はまだない。どこで生れたかとうと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番悍悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐いとも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始であろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残っている。
	哲学は	人類最高の娯楽である	何故ならば、考へることこそが、人間の一番高度な喜びだからである。但し、答へが出た後では、答へがでなければ、人類最低・最悪の苦しみである。
	話法	mode	(Webster onlineにお伺ひをたてる)
		narrative	(Webster onlineにお伺ひをたてる)

1. 『饗宴』の話法の階層：存在の三階層

『饗宴』の主題はeros・エロスです。そして、このエロスといふ神を巡つて議論される『饗宴』（symposium・シンポジウム）といふ場所での話法の階層は次のやうになつてゐる。劇作家プラトンの腕の見せ所といふわけです。



最初に簡略に此の劇の構造を話すと次のやうになつてゐます。

- (1) アポロ°ドロス ("APO") の一人語りで劇は始まる。
- (2) APOによつて話されるのは、最近APOが「外出することがあつて、パレロンから都 (アテナイ) へと上り坂を歩いてゐた。すると知り合いの一人が偶然」APOの「後ろ姿見とめて、遠くから」APOに呼びかけた
- (3) この呼びかけた男は友人のグラウコンであるが、このグラウコンといふ名前が対話が始まつてからもしばらくは明かされない。これは作劇上の技術的な問題ばかりではなく、その人の名前を呼び出すといふ行為にまつはる何か古代的な猶予が置かれてゐるものと推測します。この猶予の規則については私は知りません。この名前の出た後は、以後対話の形式になるとグラウコンは単に一般的な名前でも友人と呼ばれてゐる。さて、
- (4) グラウコンが、アリストデモスからまた聞きで聞いたアガトン邸での、アガトンが悲劇作品のコンテストで優勝した祝賀会の席での様子と特にソクラテスの話したことをAPOから知りたいといふことから、回想の話が始まる。

以上のことから、此処で、劇的な階層は次のやうになつてゐる。

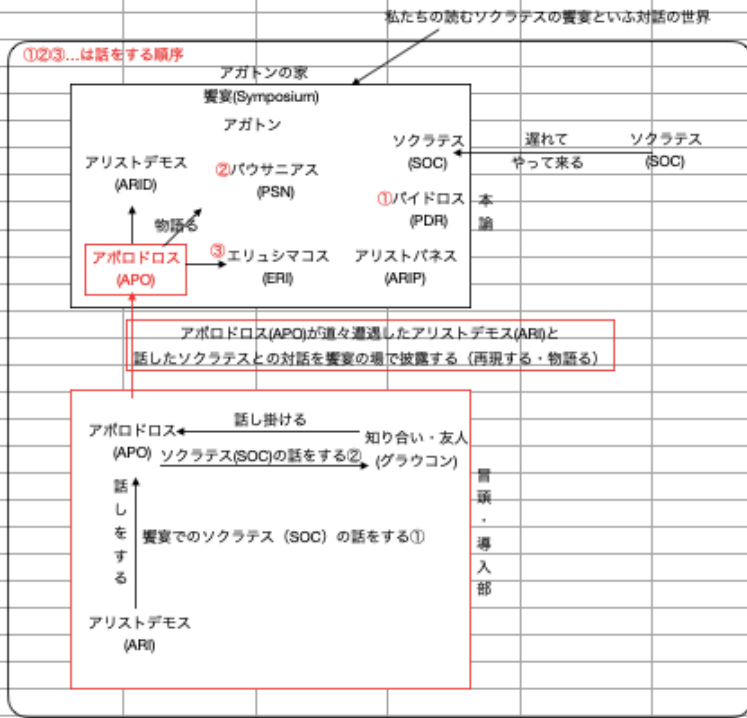
- アポロ°ドロス ("APO") の話 (>APOとグラウコンとの会話)
- >APOがグラウコンに話をするアガトン邸での優勝祝ひの饗宴の様子とソクラテスの対話の再現
- >饗宴での詳細な上記対話の再現の模様

これを詳細に図解すると次のやうな饗宴の出席者及び発言者順位となる。



2021/01/28,30
Eiya iwata

饗宴の構造(v2)
(饗宴の立て付け)



この「饗宴の構造」図のダウンロードは：<https://docdro.id/BCI4IEP>

上図の右半分は、この三層目でのソクラテスと出席者との対話の梗概ですが、今此処では此の主題については特に触れません。ソクラテスの思考論理である左半分の対話の構造または物事を考へる順序について話を絞ります。

エロスといふ神をめぐって色々な議論を尽くした前半は、エロスは豊かに生命を産む神であるからそもそも豊かさを持った神だといふ主張に対して、後半ではソクラテスが反論して、事情は全く正反対であり、エロスとは非常に貧しい神だといふことを説きます。何故なら、エロスとはいつも不足してゐる状態、欠乏状態にある神であるからだ、それ故に相手を求めるのだといふ論理を展開するのです。しかも、このエロス論の結論に至つた後休むことなく、更にディオティマといふ女性との対話をした話のまた異なつたエロス論として一座の全員に話をするのです。即ち、

このエロス論の話は、劇作の三階層の更に一層下の、従ひ其れまでの階層ならば現実との脈絡がつくか付きさうな階層で話をしてゐたものを、更にもう一層階層を増設して、この女性との対話の話を始め。此処からが、本当の意義に於けるプラトンが仕組んだ形而上学の世界の提示なのです。即ち、ソクラテスと此のディオティマとの対話は超越論であり、安部公房の例で何度も諸処既述の通り、両極端を排して第三の道を選択するのです。即ち、ディオティマによ



れば、エロスとは何かとソクラテスが問ふと、ディオティマは答へて曰く「エロスは死すべきものと不死なるものとの中間にあるものなのです」と答へるのです。これがエロスといふ、別に『国家』でソクラテスが言ひ換へて云ふ憧憬または憧れの存在する位置、即ち安部公房のいふニュートラルなエロスの位置なのです。

そして、ディオティマは、エロスとは偉大なダイモンであると定義する。「偉大なダイモンですよ、ソクラテス。総じて、ダイモンのなものは、神と死すべきものとの中間にあるのでしょうか」といふ、これがエロスです。ダイモンとは、『ソクラテスの弁明』によれば「神と人間の中間に位する霊的なもので、各人の運命を導く力とも考へられた」（『世界の名著6 プラトンI』>「饗宴」155ページ脚注）

結論をいへば、この二人の男女の対話の構造は次のやうになつてゐる。といふことは、これがプラトンの哲学の骨組みであるといふことを意味してゐます。

- (1) 主題の提示：エロス（憧憬・憧れ）
- (2) それは何か？といふ問の提示と答の探究（認識論）〔宣長風のやまとことばで云ふなら「見サマ」〕
- (3) それはどのやうにあるか？といふ問の提示と答の探求（存在論）（宣長風のやまとことばで云ふなら「有りサマ」）
- (4) 有用性による検証（＝有用な次元に抽象概念を落とし込むこと）（宣長風のやまとことばで云ふなら「働きサマ」）

以上の問答の4ステップから、やまとことばで哲学的思弁の順序を抜き出せば、

- (1) 主題はあこがれ（エロス）
- (2) 見サマ（認識論）
- (3) 有りサマ（存在論）
- (4) 働きサマ（有用性の検証）

といふことになり、要するに、やまとことばでソクラテスの哲学的対話の定義をすれば、

ソクラテスの対話とは、あこがれと三つのサマに関する議論である



といふことだとわかります。これが古代ギリシャ哲学者ソクラテスの対話の持つ様式、即ちプラトンの劇的対話の様式です。このやまとことばと漢意（からごころ）を入れ替へると、エロとは愛智・哲学の普遍的な動機ですから、

1. エロス（憧れ）
2. 認識論（見サマ）
3. 存在論（有りサマ）
4. 有用性による検証（働きサマ）

といふこれが哲学の思考のための4ステップです。

1での主題の提示の後、ソクラテスはディオテマに対して2「では、一体エロスとは何者でせう」「ディオティマ、それはいつたい、何なのですか」と問ひ（同書154ページ上段）、次に3「どんな力をもつものですか」「それにしても、その父親はだれですか」「そして母親は？」と問ひ（同書154ページから155ページ）、4「では、エロスがそのやうなものであるとして、いつたいそれは人間にとってどんな役に立つのですか」と問ふのです（同書157ページ）。此れがソクラテスとディオテマの対話の形式です。

ソクラテスは、このディオティマとの対話を、饗宴に出席の一同に向かつて「恋の道について」の話と呼んでゐる（同書161ページ）。私たち日本人の恋の道についての話と大いに異なる。

この後に、ソクラテスは、忘却と（忘れないための）復習といふ主題を持ち出して、不死と記憶の継続性・伝承性の重要性について語ります。この同じ主題は『国家』にあつても最後に神話・mythosの問題として語られてゐます。日本人にとってならば、古事記は重要であり、国家の存続にとって本質的な超越論の、従ひ真実の話です。古事記は虚構ではなく、私たちの哲学であり形而上学であることは『縄文紀元論』で詳述した通りです。更に、議論は終盤に入つて歩一歩を進め、エロスを求める恋の道と美についての話となります。要するに、「永遠にあるもの」即ち不死なるものとエロスの関係で、やはり議論の核心は、あるのです。私たちはこんな議論は不要です。何故なら、観れば判るだらうといふのが、私たちのエロスと認識と美についての実際であるからです。ここが、私たちと、嘘とは云へ近代と名付けられた時代のヨーロッパの人間達が求めた理屈っぽい議論の、此れが模範であり、範型なのです。田中美知太郎氏の言葉を上記に引用したやうに、私たちは此のやうな論理を重ねた思考順序



に慣れていません。これに慣れるには相当な修練を必要とします。今はソクラテスの議論の順序に論理的に私は追（つ）いて行くことができますが、読み始めた二十歳の時には、議論が突然最小から最大へ、最強から最弱へと転換する此の意味の成り行きの次第に追いてゆくことが困難でした。只々驚いた。今は、これがソクラテスとプラトンの超越論の当然の論理だといふこと、そしてもし近代のヨーロッパの哲学者がプラトンに論理的思考を習ふところがあるとすれば、中世スコラ哲学以来の伝統も相俟つて、両極端に敢へて論を考へて、そこから出発するのだといふ思弁の枠組みもよく理解ができるのです。問題なのは、彼らが二項対立の片方だけを選択して良しとし、いつも失敗に走ることです。ここに、繰り返しますが、超越論としての第三の道の選択、ニュートラルな道の選択、高天原第一層を含む汎神論的存在論を太古・古代以来日常身近に有する私たち日本人と日本の国の世界史的立場があるのです。これは、あなたの肝に銘じて欲しい。

此処から先は、アルキビアデスといふ美青年が酔つ払つて乱入して来て、場面が大いに転換されて終幕へと劇は収斂して行きます。美しきものの乱入にこそ此の劇の結末の意味があります。この美青年はソクラテスに恋をしてゐるからです。そして、この乱入する酔つた青年の美と、また直後に他の酔漢たちの乱入して来る場面を読むと、私はいつも三島由紀夫の『鏡子の家の』結末で「七疋のシェパートとグレートデンが、一度きに鎖を解かれて、ドアから一せいに駆け入つて来た」情景を連想するのである。これによつて「あたりは犬の咆哮にとどろき、ひろい客間はたちまち犬の匂ひに充たされ」て、三島由紀夫の劇は終はるのである。この『鏡子の家』の内部で夢見る夢を破る野生の乱入が、十一年後の十一月二十五日の話であるといふやうな野暮な話をしたいとは思はない。何故なら、ソクラテスは、これら酔漢達の乱入後、「ソクラテスは彼らを寝かせ、それから立ち上がつて、去つて行つた」からである。『饗宴』の最後の段落は続けて、次のやうに書かれてゐる。

「そして、いつものやうにリュケイオンに入つてゆき、沐浴（ゆあみ）して、それからあとのその日の時間を、いつものやうにしてすごした。そして、夕べのとばりがおきるころ、彼は家に帰つて、やすんだといふことである。」（同書188ページ）

この終はり方は、最初のAPOの語りの今・現在に戻らず、永遠に存在の中に饗宴が存在してゐることを示してゐる。といふことは、私たちの眠りとは、かくも形而上学的な意義（sense）と意味（meanings）を有するといふことであらう。



Modeとnarrativeの違いについて論ずることを逸したので、これは先々でまた論じたい。



縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く（19）

5.16.4 八の音義は何を意味するか（承前2）

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかみないのか？

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する

4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてみるのが

5.9 日本位相習合史

5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.11 かごめかごめの歌は一体何を歌っているのか

5.12 縄文土偶とは一体何か

5.13 習合といふ漢意をやまところどこで何といふのか

5.13.1 位相史のための紀元の分類

5.13.2 淤能碁呂島とは何か

5.15 縄文土器とは何か

5.16 大祓へを読み解く

5.16.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.16.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか

5.16.4 八の音義は何を意味するか

Intermezzo 3 伊勢神宮とは何か

Intermezzo 3-1 伊勢神宮をやまと言葉で読む

5.16.4-1 八の音義は何を意味するか2



青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

- 5.16.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか
- 5.17 紫式部の超越論『源氏物語』
- 5.18 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか
- 5.19 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史
- 5.20 日本人はどこから来たか

II Topologyで縄文土器を読み解く

- 0. 縄文土器の概念と分類
- 1. 紋様とは何か。目とは何か
- 2. 縄文土器の構成要素
- 3. 縄紋は縄目と渦巻き紋様で出来てゐる
- 4. 縄文土器は三階層で出来てゐる
- 5. 縄文土器には開口土器と閉口土器の二種類がある
- 6. 縄文土器は私たちの宇宙観を体現してゐる
- 7. メディア（媒体）としての縄文土器
- 8. 弥生式土器は二階層で出来てゐる
- 9. メディア（媒体）としての弥生式土器
- 10. 縄文土器と弥生式土器の関係（topologicalな連続性）：3（奇数）から2（偶数）へ
- 11. 銅鐸は7階層で出来てゐる
- 12. 縄文土器の政治と弥生式土器の政治：土器と政治の一体と分離：銅鐸とは何か1
- 13. 縄文土器の経済と弥生式土器の経済：土器と経済の一体と分離：銅鐸とは何か2

IV 21世紀の現代に縄文土器はどのやうに生きてゐるか

VII 20世紀の幕を閉ぢ、21世紀に生きるための結語

5.16.4-1 八の音義は何を意味するか（承前2）

（2）八咫鳥

カラスが、カモメと同じく、地文航法の案内人であることは既に述べた通りです。

二つの潮流が交差する地点といふか海点には魚が大量に集まるので、カモメもやつて来ますから、カモメの案内で海の民は豊漁の場所に至る事ができる。もちろん海亀も案内人としてやつて来る。これが《ヤ》の音義にあつて此の形象（イメージ）の示す豊饒なる生命、財の創造といった豊かさを意味することは、これも既述の通りです。

さうであれば、八咫鳥の八、即ち《ヤ》もまた同様の意味を持つてゐる。漢字は漢文を読むのではない限り、常に、太安万侶の設けた漢字使用規準（クライテリア）に従つて、せいぜいがやまと言葉の当て字だ位に思つておく方が無難です。即ち、漢字の意味を幾ら詮索しても、やまとところには至らない。

カラスが其のやうな鳥であり、また《ヤ》の音義がさうであれば、《夕》の音義を『日本語原論』（林臣甕著）に求めれば、八咫即ち〔《ヤ》《夕》〕といふ日

本語の意味が理解できるでせう。同書によれば、《夕》の音義、即ち文法的な概念は「未来の時格を持つ」とありますので（同書114ページ）、〔《ヤ》《夕》〕の意味は、富を生み出す豊漁の交差点にこれから未来に向かつて正しい方向を示すといふ意味になるでせう。

確かに、八咫鳥の働きは、神武天皇の東征に際して出現しやうが、私に出現しやうが、同じ働きの意味を有してゐる。私の場合には、この『縄文紀元論』がさうかも知れず、何故なら此の論は確かに時間と空間の交差点で書いてゐるからです。安部公房ならば、ニュートラルの交差点と呼んだ位置です。しかし三度も私に八咫鳥が出現するとは、天照大御神をはじめとする天津神がよほど日本の国を憂ふる危機的事態にあるか、それとも私の頭と感性がのんびりしてゐて鈍いので叱咤激励してゐるのか。更にそれとも、東征の距離を三倍にせよといふ意味か、さうなれば日本列島を超えてアメリカ大陸に至るのではないか、この超越論の世界では。となると、江戸の仇をワシントンでとれといふ神慮であらうか。と、このやうに考へて来ますと、八咫鏡の意味もよくわかります。

（3）八咫鏡

八咫鏡とは、瓊瓊杵尊がこれから未来に向かつて富を生み出す豊かな交差点に至るための正しい方向を示す鏡である

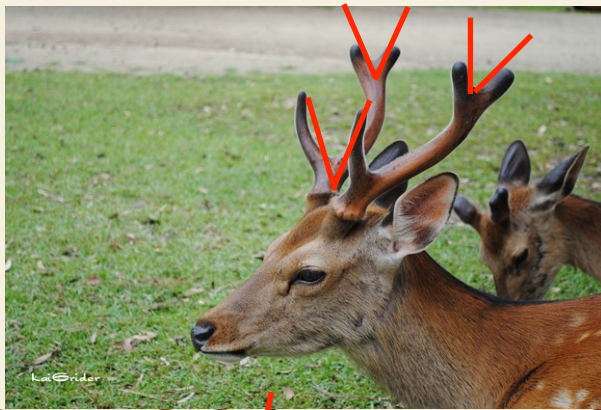
といふ意味になります。そして、鏡とは、海の民の方位測定器であることも既述したところですから、これと併せて考へますと、八咫鏡とは、確かに海（あま）の世界では其のやうな働きをしたものでせう。

（3）何故奈良に鹿がゐるのか

この問に対しては、誰が鹿をこの地に入れたかといふ問に対する答としてではなく、何故鹿が此の地にゐることが大切なことなのかといふ問に対する答として提示したい。勿論、この事実は春日大社の由緒に深く関係してゐるに違ひない。

既に、この問に対する答の半分は、鹿の体にある斑紋が、夜空に輝く星々《カ》の音義を地（つち）に写したものだといふものでしたが、もう一つの半面の答は、この《カ》の子には角があるからであり、その角が《ヤ》の音義を体現してゐるからだといふこと。ここまで書いて参りましたから、お判り戴けると思ひます。即ち、私たち日本人といふ民族・peopleは、自分で思つてゐる以上に形を重ねる民族なのだといふことです。形を形象（イメージ）といつてもよい。その形象に、私たちは意味を割り当てる。この心の働きは、言葉の場合と同じで、無意識裡に、言葉に私たちが意味を割り当ててゐるのです。これが私たちの詩魂の現れです。欧米語の文脈では、この詩魂をPoesie・ポエジーと呼んでゐる。奈良はポエジーの溢るる土地だといふことになります。確かに、奈良にはポエジーの

御タマが、生きてゐる。奈良の鹿の写真です。鹿の体と角には、海の民が地（つち）の民と文明論的な第一次習合を果たした時の宇宙が顕現してゐるのです。そして、この動物の耳の形についてもまた同様であつた。ですから、海の民が地（つち）の上で見つけた完璧な地上の動物が鹿であつたのです。鹿の耳のことに
については次章で、「天（あめ）の斑駒（ふちこま）の耳振り立てて聞食せ」（卜部神道祝詞）や「左男鹿（さをしか）の八（やつ）の耳を振り立て/聞食（きこしめ）せと申（まを）す」といふこれらの鹿と馬の耳の形象論として論じます。



- (4) 斑駒の耳および左男鹿の八つの耳とは何か
- (5) 八尺瓊勾玉とは何か

(次号に続く)

編集後記

●巻頭詩（25）：マスク：この詩がそのまま『他人の顔』といふ小説になつてゐます。初期安部公房のいふ「新象徴主義」の詩、後にいはれる言葉では実存主義の詩です。しかし安部公房の実存主義を何人が当時理解したか。全集の刊行に感謝する以外にはありません。

●飛行（49）：4。『安部公房スタジオ会員通信』（4）：第4号：安部公房スタジオの興行盛んなる様子がよく伝はります。一緒に転載した小説の本の書影を見ると、安部公房の活躍がみて取れるのではないでせうか。

●『文章読本』論（4）：菊池寛：本当に菊池寛の文章読本も平凡な事実を書いてよくできてゐます。

●Mole Hole Letter（63）：超越論II（第六回）：この源氏物語の読書方針は今でも変はずに生きてゐます。

●サンチョ・パンサを求めて（15）：ソクラテスは何故哲学者か（2）：II ソクラテスの対話の様式：これも此処まで書いて、私は嬉しい。後進の手引きとならむことを願ふ。どうして哲学者や哲学研究者は、このやうに優しく哲学と思考の順序について書いてくれないのであらうか。このやうに思ふと、私はいつもデカルトの『方法叙説』の冒頭の最初の一行を想ひ出すのです：良識は万人に等しく与へられてゐる。本当であらうか？と疑ふ日々である。

差出人：

安部公房の広場

〒182-0003東京都調布市若葉町
「閉ざされた無限」

●縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（19）：5.16.4 八の音義は何を意味するか（承前2）：《ヤ》の音義が具体的な形象と結びついて、如何様にでも説明ができるところまで来ました。あとは落穂拾ひです。

安部公房の広場

連絡先：civa.iwata@gmail.com



【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館
「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集者自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。